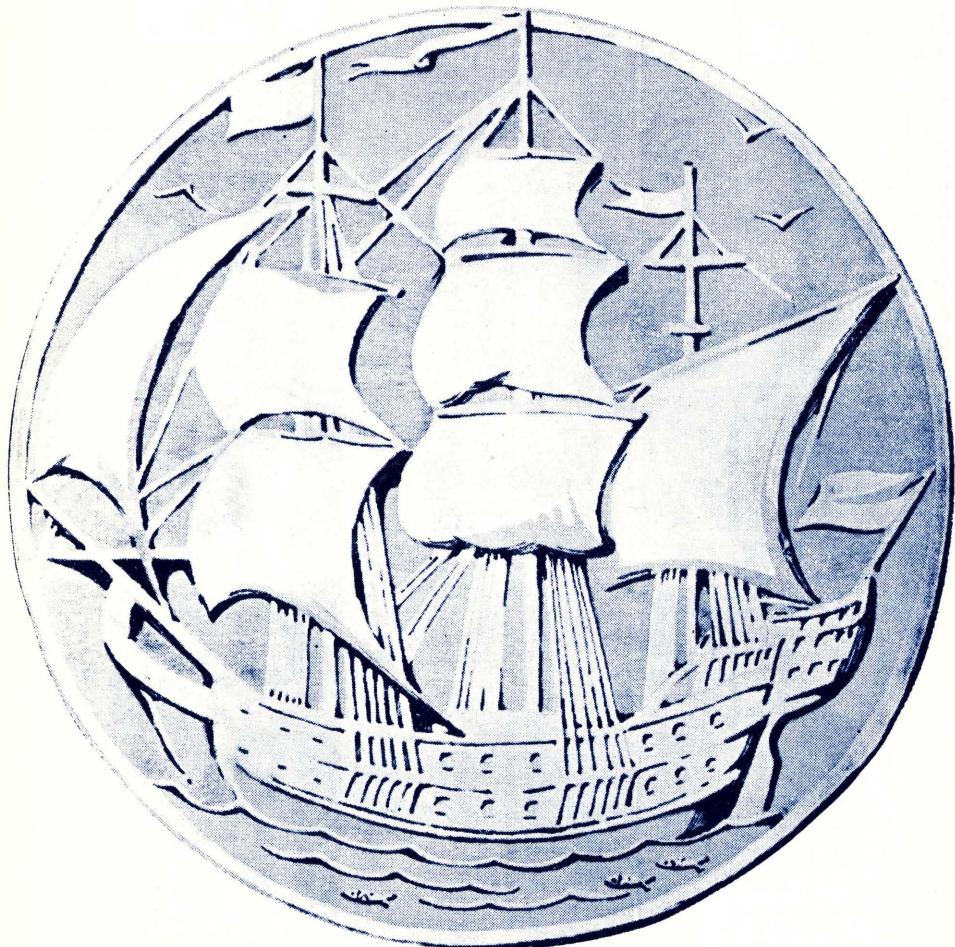


育教の兒幼

號三第 號月三 卷六十三第



東京女子高等師範學校內
日本幼稚園協會

文部省學校衛生官
體育研究所技師

醫學博士 吉田章信先生著

菊判 洋綴全一冊
金一圓二十錢送料廿二錢

新刊

夕一式

學校衛生評價

學校に於ける學生の施設は兒童の保健上最も留意せらるべき重大問題である。本書は學校衛生評價を研究したる實驗の必要に對する態度と、各擔任の定めかた、學校に關する關係官廳に於ける施設、評價に關して當局者採るべき道を互細に亘りて評說し、斯界最高の指針とす。・乞必讀。

三、健康増進、の三大綱目に別ち以

學校衛生評價

東京帝國大學
助教 授

文學士 青木誠四郎著

劣等兒
低能兒

心理與其教育

醫學博士 三田谷啓著

學童保健

菊定送
判價料
全三二
冊八十
洋十二
緞錢錢

等しく人類と生れ乍らも天賦程其の恵みに不公平の物はない。今假に兒童の天分を學的に分類して天才、最上智・上智・平均智・下智・愚鈍精神薄弱・低能・白痴に分類すると極端な低能兒は全兒童の約2%を占め猶之れに下智・愚鈍等の綜ての偏異者を合すれば二十九%に及ぶと言ふ。著者は只管に之等世に撲ねべき人達の幸福を少しでも増す爲に、より完全な教育を懇懃する爲に本書を世に問ふたのである。

本書は兒童の健康増進に其一生を賜き天職として捧げつゝある篤學の博士が凡ての蘊蓄・偏倒して著せる業績である。従つて其内容に於ては苟しくも兒童の保健に關する限り、之れを學的、統計的、施設等の各方面より暇なく詳説し、猶ほ其の實際問題、現狀に基立して懇切に指導してあるから學校教育家は勿論各家庭に於ても本書に依つて兒童健康の萬全を期し得る良書である。

番七二四八三京東舊振
番五二三三込牛話電
店書館文中
區込牛市京東四七町天辨
所行發

近刊

日本幼稚園協会編

幼稚園談話集

菊版 三五〇頁
定價 金壹圓五拾錢
郵稅 市内金六錢
地方金拾四錢

さきに發行せられた東京女子高等師範學校附屬幼稚園編『系統的保育案の實際』は非常の歡迎を受け、既に多數の方々により研究せられ又實施せられても居ります。それに就きその中に用ゐてあります談話につき便宜一まとめにした書物がないかこの御要求が澤山あり、御尤ものゝ思ひまして、此の談話集を編纂發行することにしました。右 育案を御使用の方は素より、そうでない方にも、幼稚園談話選集として極めて御便利のものと信じます。實際御使用の御容易のために定價も普通の市價の標準を離れて出来るだけ廉價にいたしました。本會の趣旨のあるところをお汲み取りいたゞけば幸です。

昭和十一年三月

發行所

日本幼稚園協会

振替口座東京一七二六六番

○四月上旬發行の豫定

○御注文は前金(郵稅も)を添へ本會宛御申込みいたゞきます。

低學年と幼稚園のための講習會

期 日 四月二十三日(木曜日)より二十五日(土曜日)まで三日間
會 場 東京市番町小學校(省線四谷驛
見附又は市ヶ谷驛下車)
科目及講師

一 幼稚園と低學年の教育 東京女子高等師範學校教授
附屬幼稚園主事 倉橋惣三先生
二十三日、二十四日、二十五日二時より五時までの豫定

一 新一年と幼稚園の遊戲實習 東京女子高等
師範學校助教授 戸倉ハル先生
二十五日一時より二時まで

實 費 左の通り申受けます

三 日 間 金 壱 圓

一 日 分 金 五 拾 錢

申 込

前日迄に會費を添へて會場宛(番町區下六番町三五
番町小學校内幼稚園)お申込み下さい
一日だけの申込は當日にも可

主 催 保 育 實 習 科 卒 業 生 同 窓 會
後 援 日 本 幼 稚 園 協 會

東京女子高等師範學校附屬幼稚園内



號三第一 幼兒の教育 卷六十三第

—(次) 目)—

口 繪	
卷 頭(三 月)	倉 橋 懿 三(一)
子供の繪(其五)	菅 原 敦 造(二)
保育・教育連絡の一實驗	白 根 孝 之(三)
兒童心理學文獻抄(十六)	牛 島 義 友(六)
幼稚園の修了式入園式	(臺)
系統的保育案の實際解説	日本幼稚園協會(四)
生活指導	倉 橋 懿 三(哭)
誘導保育案	菊 池 ふじの(五)
唱歌遊戲	小 村 上 露 露 子(五)
談話	新 庄 よしこ(四)
唱歌遊戲	小 島 光 子(六)
觀察	及 川 ふみ(六)

創刊五十周年記念大典

童話研究

童話研究
十二卷
蘆谷蘆村氏著
講學

四六判函入上製美本三〇〇頁
定價 豐圓五拾錢 送料十五錢

會費一個月二十五錢一個年金參圓
◎見本郵券二十五錢をお送り下さ

童話の創作童話の口演、童話教育、家庭童話
其他あらゆる方面に亘り、原理を研究し、實
際を指導し、資料を供給する、日本唯一の雜
誌、斯學の權威萬谷重常氏主宰の下に十五年
の歩みを終り、一大躍進の途に上らんとして、
新らしき同志の来るを待つ。

童話の創作童話の口演、童話教育、家庭童話

穂積歌子 一、五〇
新楠公記 一、二〇
大童話家の生涯 一、一〇〇

近代日本の生んだ代表的賢婦人の傳記
大楠公の生涯を、最も新らしい見方と材料
とによつて詳述した、卓拔なる史傳文學。

靴直しの子から世界の童話王となつたアン
ダーセンの波瀾万丈しかも感激に満ちた生
涯を詳述、信仰の書にして又修養の書。

開卷童話の語義を詳説して童話そのものゝ概念
を明かにし、次いで童話が如何にして発生し、
如何にして發達し如何にして分化し、如何なる
類型を生みたるかを無數の例話によつて説明し
更に童話の内容たる超自然的空想の起源につい
て詳説してある。小冊子ではあるが著者多年
研鑽の結果を壓縮したもので、加ふるに幾多の
實例を擧げて面白く詳述してあるから、之を讀
めは何人も腦中に一大童話辭典を作り上げるこ
とが出来る。巻末には特に全部の例話の索引を
附けて、讀者の利用に便してある。

童話學十二講此廣告を見て御
申込の方に限り送料不要

東京市丁目六番九号 司九六六區島豐町六
日本協話會



忙 中 閑

るす説解な『際實の案育保的統系』



三月

幼児の教育

昭和三十一年三月

芽が出てるましたと告げに来る子がある。花を見つけたといつて飛んで来る子がある。つれられて行つて見る。その芽は低い雑木の枝の端の小さい綠粒であり、その花は名もない草の葉がくれの苔である。

「まだ、こんな小さいの……。」

またしても、こんなことをいふのがおこなだ。「まだ……」それは將來をのみ待つて今を見落す心、將來にのみ重きを置いて今を軽んずる心の、あさはかにも、すげない、つぶやきの聲である。春を四月の爛熟にのみ求めて、そのために却つて、芽と蕾の今の春を「まだ……」とか受けこり得ない、こちたくも、慾ふかな、おこなの結果癖である。

三月の春は早く子さもらに来る。一步々々あゆみよる小さい春を、そのままで一ぱいに享け、一ぱいに楽しんでゆく子さもらに。

子供の繪（其五）

菅原教造

（十二）人間離脱の自畫像

前號で述べたやうに、道、純粹、向、そのものは、絶對的統一の世界であり、直觀のない、言語のない、形のない、たゞ思惟の疾走、思ひ付きの閃き、解決の歡喜の境地です。透明そのものゝ言ひますか、眞空の相を言ひますか、生々の氣を言ひますか、又は殺氣を云ひますか、姿・形となる前のエッセンスを言ひますか……實は何とも言ふ事の出來ない、たゞ一筋の氣合が透徹してゐるだけです。この世界には、人間の手になる作品を言ふものはありません。

形の素から、創作の世界即ち生命の躍動が始まります。これが繪の素です、動く姿です。こゝに作品を構成する生きた形・意味のある姿の出立點があり、こゝから人間的統一の世界が始まるのです。人間的統一の世界の中でも、一方苦勞を重ねて完成する人間的構成の作品に對して、他方神品的構成を子供の繪の構成が考へられる事は、右に述べた通りです。

藝術の世界では、ものが見えるのではなく、ものを見るのです。形の素が、「私ならばかうする」を考へながら、作る氣持で現實の局面を見るのです。それですから、見るとは形の素の構圖でものをまごめると言ふ事です。見た瞬間に、現實の世界が直下に改造の世界になるのです。作家の形の素が、現實の局面即ち第一素材（モデル）と第二素材（描現材料）に觸れる度毎に、新しい形を作り出すのです。これが人間的統一と言ふ創作の本筋の道なのです。

このやうに、形の素^ミ言ふ人間的統一の主體によつて、作品が構成されるのですから、何を描現しても——描現^ミ言ふ

事は第一素材を統一して人間化する即ち生かす^ミ言ふ事ですから——その作品は皆人間的のものであるに極つてゐます。

これが藝を見て「うまい」^ミ感嘆する氣持の正體です。つまり「人間が人間を離れる瞬間の人間の味」が、作品^ミ見る人^ミを一つのものにしてしまふのです。それですから、形の素^ミが光つてゐる限り、一方、行き届いた・完成した・複雑な大作でも、又他方、捨てて捨て^ミ到達した一線・一點、例へば(十二)に掲げた濱田の陶器のやうな文様でも、或は時^ミしては白紙のまでも、それがやはり、人間的統一の描現なのです。しかもこの捨て^ミ捨て^ミ到達した一線・一點の描現に突き抜けたいために、作家は人間離れのした神品的の構成や、子供の繪の構成に牽かれるのです。癖を捨てるために、生れ替りたい^ミ思ふほどに描現に苦しんで作家でなければ捨てない子供の繪の、ほんとうの意味がこゝにあるのです。又少くとも繪の上で、さういふ人間離脱の苦惱^ミ歡喜を味つた人でなければ、子供の繪の解らない理由もこゝにあるのです。

人間離脱の苦惱^ミ歡喜^ミ言ふこの人間的の氣持、これは人間^ミ遠い^ミ言ふよりも、人間^ミ遠いやうで實は最も近い氣持^ミ言ふ方が、一番よく當つてゐるでせう。今これを、作家^ミ第一素材(モデル)^ミ作品^ミ見物人^ミの關係から、畫家が自畫像^ミを描く場合を例にこつて述べて見ませう。畫家があつて、その選む第一素材がその畫家自身です。又仕上げた作品の自畫像は、やはりその畫家を描現したもののです。その畫家が又見物人^ミしても、その作品を眺めて、人間が人間を離れる瞬間の人間の味を考へてゐるのです。

このやうに、作家・第一素材・作品・見物人の四つが一つになつてゐ……さう言ふまごまりの締め括り手は何が、それは人間である^ミ答へるより他に、言ひやうがありません。しかも、人間が人間を離れる所に、すば抜けた・捨て身の・すばらしい境地があり、こゝから癖のない・純な・新しい人間の味が無限に湧いて來るのである。そして描現の呼吸^ミ言ふ事も、煎

じ詰めるこ、この意味の人間の味こ言ふ事になるのです。それですから、捨てゝ捨てゝ到達した描現の極致が、人間こして自己を捨てゝ到達した修業の極致こ、そこか一點で觸れ合つたら、その作品は相當なものだと言へるでせう。又さう言ふ一瞬の思ひこ腕の冴えこを、作品こしてポンミ投げ出すこ言ふ事は、決して人間の虚榮でも自負心でもなく、實に氣持のいゝサッパリした告白であるこ言つていゝでせう。このやうに、今までの藝術的思惟の動きの總決算としての作品を、サラリと投げ出すのですから、作家はその時つ切りでその作品をサラリと忘れてしまへば、それでいいのです。こゝにも人間の離脱があるのです。作品を残すの、作品が殘るのこ言ふやうな未練な事を、決して考へてゐるものではありません。残すこか殘るこか言ふここは、あさましい作家の妄執を物語るに過ぎないのです。又この作品をどう見るかは社會の勝手です。先方の見たいやうに見せて置いたらいいでせう。しかし見る者はチャンと見てゐるでせう。こゝにも人間の離脱があるのです。たゞへば、どんな金言でも、一旦言ひ出したからには、それはもう社會のものです。謂はゞフツツリ自分と縁の切れたものなのです。それを社會が覺えてるてくれるかどうかは、先方の勝手です。少くとも自分は、もうそんなもののを忘れてゐるのです。そんなら自分はこうするか、もつとも金言を考へるだけの事です。これが作家と作品と見物人の關係です。さう言ふ人間生活・創作生活の究極點と言ふズバリとした・スッキリした氣持を説きたいために、自畫像の問題を選んだのは、この例から始めるこ、「作家・第一素材・作品・見物人の全體を統一する人間」こ言ふものを、解り易く説く事が出来るからです。實は、「人間のあらゆる作品は、皆廣い意味で、作家の自畫像である事」を説きたいからです。

もし作品としての自畫像が、人間全體を代表するほどの出來栄えのものならば、さういふ究極點へ到達するまでの作家の間こしての生活、修業、描現、修業こが、どんなすばらしいものかと言ふ事が考へられるでせう。この生活の修業は、第一素材であり同時に作家自身であり、又この生活の刺戟と解脫を作品化するのが描現の修業です。もし第一素材を

人生を名けるならば、作品はこの人生に即してそれと離れる作家から生れるのです。

次に右に述べたやうな画家の描く自画像を、他の藝術上の作品と較べて見ませう。文學は第一素材（人生）と作家との生活關係から生れます。文學に於ける形の素は、言葉に即した作家の人生觀であり、作品は作家の人間解釋の報告であり告白です。もし画家の現身を描く自画像を第一義のものとするならば、作家の現身を描かない文學の作品は、第二義の自畫像であると言つていゝでせう。一流の作品は、どんなものを書いても、その作家の遺言狀です。遺言狀は即ち最後の自畫像です。繪や彫刻の作品が、自畫像・自影像でなく、他のものを描現した場合でも、作家が第一素材を形の素で統一して作品にすると言ふ事は、形の素と言ふ自己^{（じこ）}を通して人生や自然を見ると言ふ事ですから、第一素材と作品との關係は、文學の場合と同様です。この點に於てやはり作品は作者の第一義の自畫像であると言つていゝでせう。

このやうに、文學や繪や彫刻の場合でも、先づ人生と言ふものが與へられ、現實の局面即ち第一素材がハッキリ出るります。そして、いつでも第一素材と作品との關係が、藝術上の問題になります。所が、踊りや陶器や織物の場合では、この關係が違つて來ます。

踊りでは、二つの場合が考へられます。第一に、劇的の踊りの場合は文學と關係をもち、生活の意義と言ふ第一素材を描現しようとしています。しかもその描現材料たる第一素材は、作家即ち舞踊家の身體であり、この身體的描現がそのまま作品となるのです。作家と作品とが一つに合體してしまふのみならず、作家自身が直接に見物人に向ひます。世の中に、これほぞ人間離れのしにくい藝術的描現はありません。かうして作家は身體を以つて人間解釋の自畫像を描いてゐるので、これがやはり第一義の自畫像です。踊りでは、作品と作家とが合體し、作品は即ち本人の姿なのですから、この作品は無論第一義の自畫像でもあり得るわけです。しかし作家の現身が素材としてそのまゝ出てるるゝもに、作者が直接に見物

人に面してゐる點に於て、畫の第一義の自畫像は、藝術化されません。つまり作者が劇や踊りの役の人柄になり切れず、本人が餘りに剥き出しになつたり、見物の事ばかり考へてゐたりするため、めつたに藝術的の第一義の自畫像になり得ないのです。第二に劇的のものなく、單に樂曲に合せて踊る時には、第一の場合の踊りのやうな第一素材が與へられず、第一素材としての身體も描現だけが作品になります。この場合の作品は、(十二)の「陶器の技巧」を言ふ項で述べたやうな新構成のものです。所謂原構成と再構成と言ふ二重の構成、正しく言へば、第一素材と作品と言ふ二重の構成が考へられないのです。このやうに、生活と言ふ「モデル」を前に置いてない作品でありながら、他の藝術的第一素材に當る生活を、作品を以つて示してゐるのです。陶器は、文學や繪や彫刻や第一の場合の踊りと違つて、作品は第一素材を離れたものであり、第二の場合の踊りほど描現が直接的でありませんけれども、作品が新構成のものである點に於て、これこそ似たものです。作家は形の素によつて、第一素材を藝術的に構成して作品を投げ出すのです。文學や繪や彫刻や第一の場合の踊りならば、作家が人生とか生活とか言ふ第一素材を手懸りにして作品を構成し、作品が生活を作り直してゐると言つていゝでせう。陶器や第二の場合の踊りや織物などでは、新構成としての作品が、直接に生活を説いてゐるのです。形の素が作品と言ふ新構成を以つて、生活の中に入つて行き、人間解釋を試みようとしてゐるのです。この點に於て、第二の場合の踊りでも陶器でも織物でも、「モデル」としての第一素材を離れてゐながら、作家はやはり作品に於て自畫像を描いてゐると言つていゝでせう。これが第三義の自畫像です。

右に述べた事を概括して見れば、狹義の即ち作家の現身を描く第一義の自畫像に對して、廣義の即ち作家の現身を描かない自畫像——作家が人生を作品化し、所謂再構成の作品を以つて人生を解釋する第二義の自畫像と、作家が第一素材なしの新構成の作品を以つて人生を解釋する第三義の自畫像とが考へられると言ふ事になります。ここで插話を一つ出して

見ませう。右に、劇や踊りでは、めつたに藝術上の第一義の自畫像が描けないこ申しました。何故かと言ひますと、役者（作家）が同時に第二素材ですから、これがあらはに出過ぎるこ、役者が役の人柄になり切れずに、藝（第一及び第二素材の作品化）がさうしても本人離れをしません。又一般の役者は、自分が見物に見られてるこ言ふ考を捨てる事が出来ません。凡そ世の中に、自惚れ氣一ぱいで描いた自畫像ほぞいやみなものはありますまい。「ざまを見ろ」といふ言葉がありますが、これは起りから言へば、昔のサラリミした江戸つ子の自嘲の意味の句で、自分で自分の失敗、たゞへば變な自惚れを罵つたものです。昔は決して他人に向けた悪口ではなかつたのです。自惚れ離れをするこ言ふ事は、自己を捨てる事です。人間は一生の間、この意味の「ざまを見ろ」と何遍繰り返さなければならぬ事でせう。考へて見るこ、實にウンザリしてしまひます。

この點から考へて、たゞ人氣を命こしてゐる——我儘こ自惚れの權化のやうな役者が、舞臺で自分（作家）を捨て、藝（作品）を忘れ、見物を離れるこ言ふやうな超脱した境地があり得るかさうか。誰でも「役者が自分を捨てた自畫像を描く？そんなこゝがあるものか」と思ふでせう。しかしそがあるのです。

今から十何年も前の事です。震災前の歌舞伎座で『鼓の里』といふ新作の狂言を見た事があります。新作こ言ひますけれども、實は當時の座付作者榎本某が、西洋ものから翻案したのです。享保の頃、大和の櫻井の里に、安房勘兵衛（故人松助）といふ鼓師の名工が住んでゐました。この土地は、昔から里人が鼓を作るので、鼓の里こ呼ばれて居ります。勘兵衛の一人娘の倉子（故人福助）こ、一人の弟子、美男の三之助（故人勘彌）こ醜男の捨藏（今の大五郎）こ之間の苦しい戀物語が、鼓の制作こからんで、劇化されて行くのです。ある時、綾小路有信卿（故人仁左衛門）が勘兵衛を呼んで、大内の御用こして、後世に傳はるやうな鼓の胸を打つやうにこの内意を傳へました。勘兵衛は鼓の里の人達を勵ますために、自分は御用

を辭して、里の若い工人に技を競はせ、選に入つた者を娘の婿として自分の家を繼がせよう約束します。倉子を思つてゐる一人の弟子も、互に命にかけて鼓の胴を作るのでですが、娘は三之助の方を愛してゐます。三之助は里の人の誰よりも上手ですが、捨藏の方は天成の名人なのです。捨藏は倉子の心を知つて、自分の戀作品を犠牲にして、一人を添ひこなすことをさせようします。

いよいよ競技の日が來ます。里の本陣を宿にしてゐる綾小路卿は、廣間で金春六之丞に鼓を調べさせ、その音を聽いて鼓の鑑識あきをします。この時の仁左衛門の演技は、自己を捨て藝を忘れ見物を離れた……實に超脱の極に達したすばらしいものでした。一體この人の藝、殊に老役おけやくには、枯れ切つた・捨てた味、悪く言へば、トボケたやうな抜けたやうな調子が、サラ／＼こ出てるましたが、それでも一番あこまで残つてゐたのは、自己でした。見物を忘れ藝を忘れてても、自分の癖はなか／＼捨てられなかつたやうです。それが綾小路卿の場合には、全く見物に呼びかけてゐないのみならず、仁左衛門が綾小路にかくれてしまひ、その綾小路卿さへも、鼓に氣をこられてゐるのです。三人の間のもつれ、殊に捨藏の氣持を、鼓の音に溶かして、ボーッとそれを考へてゐるのです。この場面を始めから終ひまで、舞臺はこの離れた人生の味で支配されてゐました。これが人間のいや味・臭さ味の代表者を考へられてゐる役者の藝か——人が藝の道に入ればここまで來られるものが——しみ／＼考へたものでした。

達すれば、役者でもここまで來られるのですが、一般的の作家は、もつこ／＼すば抜けていゝ筈だと思ひます。畫家が現身を描く第一義の自畫像の到達點も、大方この邊にあるのでせう。自畫像に限らず、廣く人間の體、特に裸體や人の顔を考へて見ても同じ事です。人體や顔の描現が、人間を代表するやうな作品となるまでの、第一素材の刺戟とその超脱、第二素材への興奮とその離脱、作家の生活の執着と捨身、さう言ふ對立したものゝ間の鬪争とその克服が、人間を主題

こした人間的構成の作品の偉大さを物語るものであり、又たゞへ藝術上のどんな第一素材を持つて來ても、これほどの深さのものは考へ得られないでせう。人體や顔の描現が、生活と藝術の焦點に立つ理由がこゝにあるのです。そしてこゝまで來れば、間接描現の第二義の自畫像も、直接描現の第三義の自畫像も、第一義の自畫像と同じ事になつてしまひます。即ち人間のあらゆる作品は、皆廣い意味で作家の自畫像なのです。

(十三) 素の裝飾——繪の出立點と歸着點

あらゆる藝術上の技巧は、思惟が素材に突入する事であり、藝術上の描現は、形の素が素材を統一する事です。右に述べたやうに、この描現と言ふ人間的統一の世界が二つに分れます。甲は向うに第一素材を控えてゐる(即ち第二義の自畫像を描く)藝術であり、乙はさういふものなしに、第二素材の作品化だけに立脚する(即ち第三義の自畫像を描く)藝術です。乙の方は第一素材を抜きにしてゐるために、その制肘を受けませんから、描現が自由であり、作品と技巧との關係が直接的であり、作品と技巧との距離が近くなり、随つて技巧が正直になり剥き出しになり、技巧のごまかしが利かなくなります。この乙の方、たゞへば陶器や織物などは、形の素が直接に自己を描現しますから、直接描現の作品と名け、甲の方、たゞへば文學や繪や彫刻などは、形の素が第一素材を通して自己を描現しますから、間接描現の作品と呼んでいいでせう。

前に、(九)の「心境の繪と畫面の繪の間」といふ項の、前階段の第一で、「天來の圖案」「素の裝飾」と言ふ事を述べました。三歳位の子供が、スラ～／＼スラ～／＼描く「向きの繪」は、わけのわからない大人から見るといたゞら描きの線の連續のやうに思はれるかも知れませんけれども、こゝにしつかりて、世間で言ふ形式美が根をおろしてゐるのです。正しく言へば、

それがそのまま、天來の圖案であり、素の裝飾なのです。こゝに後で繪になる元の姿が出てゐるのです。そして、それがそのまま、大人の繪にまで伸びて行くのです。

子供の世界だけではありません。凡そ畫面と言ふものが構成されたら、即ち形の素が構圖をこり描現として發展したら、それは皆天來の圖案であり、皆素の裝飾なのです。極言すれば、「形の素を繪の方の言葉で素の裝飾と言つてい」とのです。(+)の「構圖・描現・技巧の誕生」といふ項で述べたやうに、形の素は、あらゆる形を生み出す氣合ひですから、形の素は、あらゆるいゝ色、いゝ線、いゝ形の生みの親なのです。繪の世界に於ては、この同一の形の素即ち素の裝飾が、一方繪のやうな作品では第一素材を通じて間接に現はれ、他方陶器や織物のやうな作品ではそのまま直接に現はれるだけの事で、間接描現の場合でも直接描現の場合でも、生みの親としての働きには何の變りもありません。つまりあらゆる作品は、描現されたものである限り、即ち第二素材が人間的に統一される限り、それは皆廣い意味で裝飾的なのです。精しく言へば、素の裝飾と言ふ廣い意味の裝飾が、間接描現と直接描現とに亘つて、寫生と所謂裝飾即ち狹い意味の裝飾とを含んでゐるのです。それを世間では、一方を寫生又は描寫、他方を圖案又は裝飾と言ふやうに、繪の世界を勝手に兩断して、兩方の生みの親が違つてゐるやうに考へてゐるらしいのです。

次に、河井の陶器と、これをモデルとして描いた子供の繪を例にして、この問題を説いて見ませう。第一圖は、大正末の河井寛次郎の壺です。白地の素焼に、茶の釉薬をかけ、それを撥き取つて梅の花の形を出し、花びらの境界線や蕊は、陰刻になつてゐます。そしてその上から黒の釉薬をかけたものです。

第二圖は、第一回に述べた子供が八歳の時(昭和二年)に、右の河井の壺を第一素材にして、即ち手懸りにして、薄茶色の全紙の木炭紙に、初めに鉛筆で輪廓をこり、赤茶色の白墨と西洋木炭で、大きくなつて壺を描いたものです。素焼の部分は、

第一圖 一
第二圖

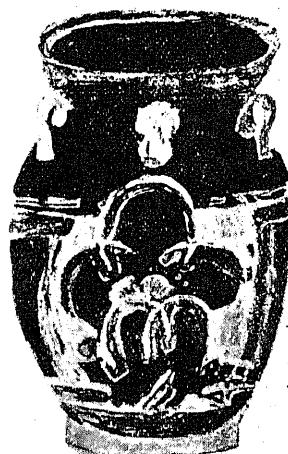
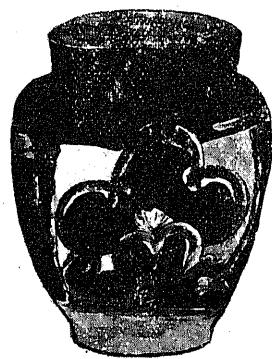


(歲九) 蕉ショレク

河の井 薫

第三圖 四

第五圖 二



(歲十) 蕉筆毛

(歲八) 黑白色 薫

木炭の粉を振りかけて、指で擦つたものです。壺の口は赤茶の白墨で塗り、耳は描いてありません。かう言ふ色白墨と木炭の描現は、バステルを原始的にしたやうな味のものです。この壺の姿の童心的の超脱さを、何と書つて説いたらいいか解りませんが、こもかくもこれは、大人の言ふ巧拙の境を越え切つた偉大なうまさであるといつていゝでせう。つまり大人ならば文化のカスを捨て、描現の癖を捨てゝ、やつゞ到達するやうなものを、例へば上代の支那や埃及の作品のやうな味を、ノッソリと無造作に握つてゐるのです。しかもその描現の中に動くいろいろの氣持、例へば、初心、純心、無垢、無心、つまり意識以前でも言ひたいほどの愛らしい・華やかな無邪氣さ……ふつくりした、のんびりした、ゆつたりした、大まかな、太古の面影のある所……荒削りな、たくましい、ざつしりした、強い構へ……さう言ふものが一つになつて、この大きな壺が立つてゐるのです。この繪は、河井の壺と言ふ第一素材をほんの手懸りにしてゐるだけで、壺の形から、梅の花から、色から、描現は全部子供の構成です。この年齢の子供の持つ特有の素の裝飾が、スク／＼、そのまま直接に、しかも反省なしに、出でてゐるのです。大人から考へるこ、これは素材脱却・人間離脱の代表的の自畫像でせう。しかも可愛らしい自畫像です。

第三圖は、この子供が九歳の時(昭和三年)に、同じ河井の壺をモデルにして、四つ切りのケント紙に、クレヨンで描いたものです。色は地色は黒、壺の口の周圍と梅の花が茶です。陶器の陰刻に當る所は黄色の線、素焼の部分は、黒のクレヨンで薄くサラ／＼と描いた上を、白クレヨンを強くかけて、荒くぼかしてあります。地色の黒クレヨンは、力一ぱいゴシゴシ塗り潰して、クレヨンの含む蠟で、油繪具のやうな深みを出でてゐます。この繪では、壺の口は黒で塗り、陶器の耳を描いてゐます。耳は素焼の部分と同様に黒の上に白をかけ、それに茶を薄く添えてゐます。第二圖と第三圖を描いた時間の隔りは一年位のものです。

第四圖は、この子供が十一歳の時（昭和五年）に、やはり同じ河井の壺をモデルにして、礬水引きの美濃紙全紙に、毛筆で描いたものです。第二圖・第三圖と較べるに、壺の輪廓や梅の花に、線の活躍が見られます。色は地色は墨、梅の花は岱赭です。素焼の部分は、鼠綠色で薄く描いてあります。この繪では、壺の口は岱赭で塗り、陶器の耳は描いてありません。

第三圖と第四圖の時間の隔りは、一年半位です。

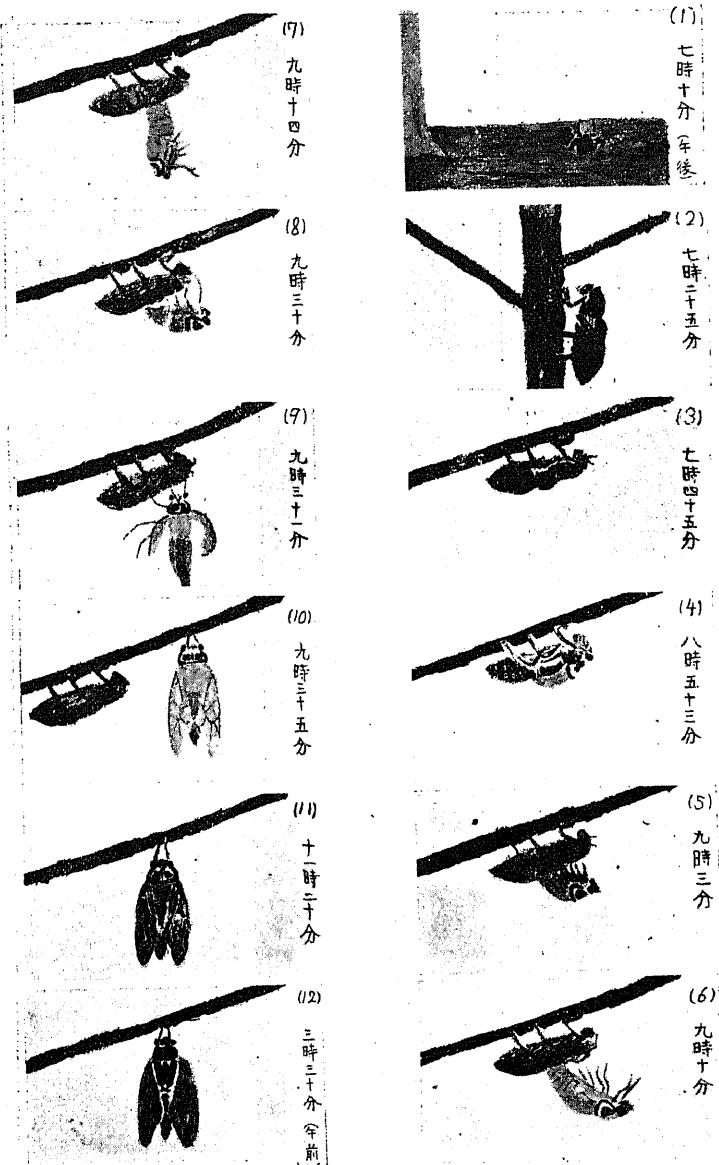
このやうに、一方に第一素材としての河井の壺を置き、他方にそれを手懸りにして、年を違へて別々に描いた三つの繪を置いて、この全體の繪の共通の根本の問題——形の素、素の裝飾、つまり繪の本性の問題を考へて見ませう。壺を描いてゐる子供は、前に描いた事を思ひ出しません。たゞその時の氣持で、我を忘れて熱心に描いただけです。随つて前に描いた繪を見るわけもありません。ましてそれと比較して描く筈もありません。この三つの繪は、それと互に獨立に、全くその時々の氣持のまゝなりの描現です。

第一素材即ちモデルは同じ壺ですけれども、三つの繪で、一方子供の年齢に伴ふ生活の差が知られ、素の裝飾からおひおひに寫生の芽が伸びて來る事が解ります。又三つの繪で、他方第二素材即ち描現材料が全く違つてゐる事が知られます。第一圖は木炭紙に色白墨、第三圖はケント紙にクレヨン、第四圖は厚美濃に毛筆です。先づ描現の全體の感じから言へば、第一圖は素朴でノッソリしてゐます。第三圖はピッチリして充實してゐます。第四圖にはこなれた、枯れた味があります。次に色は、こゝに掲げた寫眞版では想像して頂く事が出來ませんから、代用的に言葉で申して見ます。第二圖の色は華やかであり、第三圖の色は活き活きとして居り、第四圖の色は澁いと言つていゝでせう。最後に形として、壺の全體の形、横縦の釣合や、壺の肩の形や、口の形や、梅の花の形などは、描繪によつても、ある程度までは比較が出來ます。さう言ふ描現の差異を通して、三つの繪の移り變りの根柢となつてゐるものは何か、これが中心の問題です。世間では、

こゝですぐ児童の繪の發達と言ふやうな理窟を立てるやうです。しかしさう言ふ人達は、「人間離脱の人間の味」と言ふ繪の「大道」を知らないために、生理學上の網膜映像論や寫眞論や用器畫論などを、無反省に繪の方へ持つて来て——創作的の形の素の代りに機械的のい、ハズの構成、別言すれば、生きたものゝ代りに死んだものを持つて来て——さう言ふ見當違ひの發達階段を考へて居るのです。今、繪の大道から、右の中心問題を考へて見ませう。この第二圖は、寫生のやうに見えるかも知れませんけれども、實は子供がまだ第一素材をこなす事の出来ない時代に、もうシッカリ出來上つてゐる直接描現なのです。この年齢の子供の繪は、手懸りとなるざんな物を見ても、又たゞへ何も見なくとも、形の素が直下に活躍し、それがゲン^{ゲン}素の裝飾^{アラカルテ}になつて構成されてしまひます。こゝに繪の本筋の道があり、人間の繪の出立點^{アーチ}と歸着點^{アーチ}があります。捨てるこゝを知つてゐる作家は、たゞへ途中でざんな繪を描いても、最後にはまたこゝへ歸つて來ます。それですから、人間の描く繪は、極言すればこの出立點と歸着點との間を往復してゐるのです。第三圖と第四圖とは、子供が追追に第一素材になじみ、追々に第二素材がこなせるやうになり、出立點から出かけて行く所だと言つていゝでせう。しかし、それでゐて、やはり第二圖の素の裝飾の構成を、シッカリ踏みしめてゐるのです。

次にもう一つ實例を擧げて見ませう。第五圖は、この子供が十歳の時(昭和四年)、木炭紙にクレバスで、油蟬の羽化又は脱け變り、即ち油蟬の幼蟲が、土を脱け出して木にこまり、殻を脱いで成蟲となるまでの^{メタモルフオシス}變態^{メタモルフオシス}を描いたものです。この子供の七歳の時から、毎年夏休みに、晩方になるご庭の地中から這ひ出して來る油蟬の幼蟲をつかまへて、植木鉢の木にこまらせ、その脱け變る姿を断片的に描いてゐました。第五圖は、その三年間の收穫を、最近の即ち昭和四年の實例によつてまとめたものです。又第六圖は、第五圖と比較するためこゝに掲げたのですが、これは昭和五年に、その脱け變りの各場面を、苦心して寫眞にこつたものです。

第五圖



(歲十畫スバレク)

圖 六 第

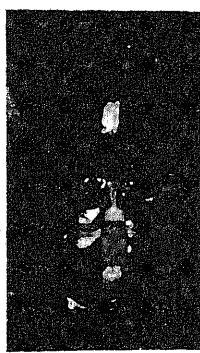
(あぶらせみの寫真)



7



4



1



8



5



2



9



6



3

一六

眞寫の化羽の蟬油

「昆蟲の生活を見る、それを繪に畫く」と言ふ事は何か。昆蟲の生活を見ると言ふ事は、自然觀察の人間生活態度として考へれば、人に即して、自然を考へる事ですから、さう言ふ構成された場面々には、見る方も見られる方も一如一體となつた生命が、そこに脈打つてゐるわけです。随つてこの全的な場面、全的な態度を、生き／＼と描現した繪には、科學的とか藝術的とか言ふやうな區別が認められないものなのです。世間がこの問題について根本的に誤解してゐる點が二つあります。第一は、科學者の觀察が、活き／＼した發見的な・創作的な働きであると言ふ事を知らないで、屍體解剖でもするやうな、冷たいいたゞ分析一方のものであると思ひ込んでゐる事です。第二は、この活きた創作的觀察の記錄としての繪の正體が、即ち同時に藝術的のものであると言ふ事を知らないで、觀察の繪は寫眞そのまゝのやうな繪でなければならぬと信じて居る事です。

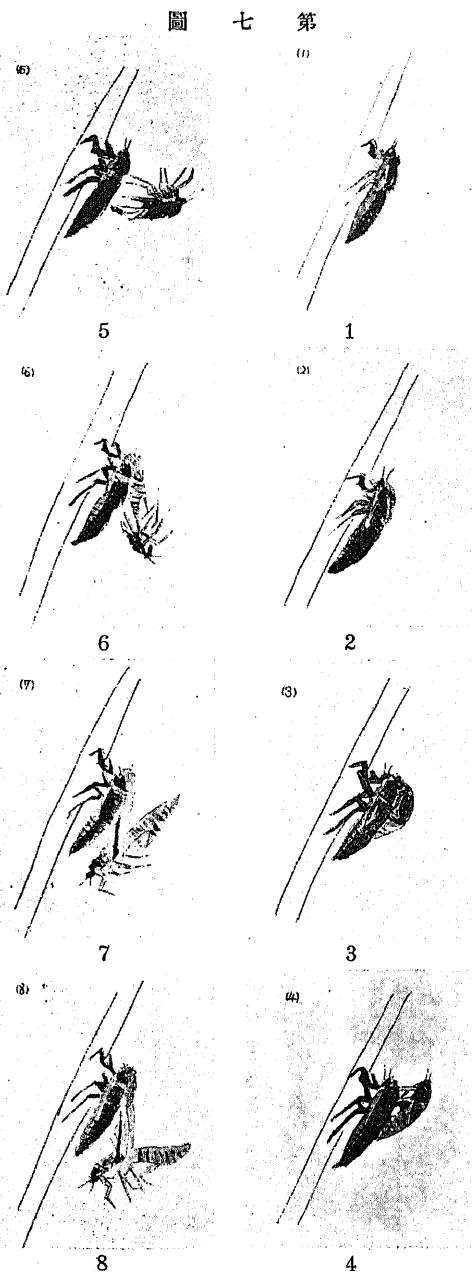
右に述べた全的場面・全的態度の言葉の記錄として、この子供の二人の兄が、第五圖の解説として書いたものを掲げて見ませう――。

「夕方庭で遊んでゐるゝ、小さな穴が見つかりました、指でちよつゝ突くゝ、大きい圓い穴になりました。覗いて見るゝ、中に蟬の幼蟲の黒い眼が光つてゐます。穴から出て逃げないやうに、笊を被せて置きました。

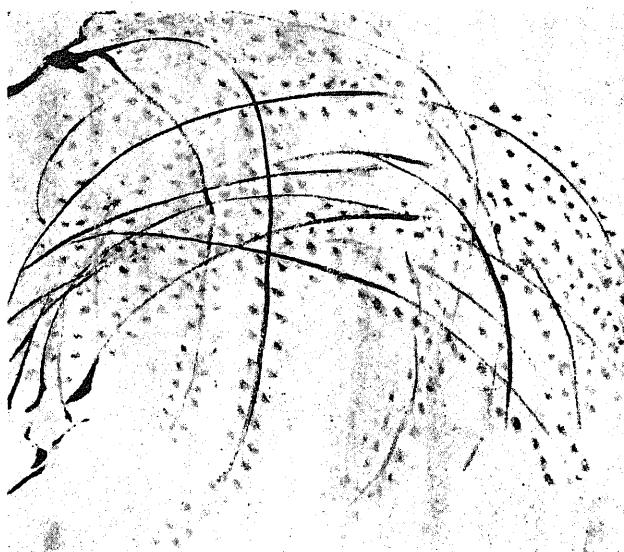
七時頃、御飯がすんでから行つて見るゝ、もう蟬の幼蟲は穴から出て、笊の中で這つてゐました。すぐ捕へて、植木鉢の木にこまらせました。初めは木を登つたり降りたりしてゐましたが、三十分ばかりしたら、靜かに枝にこまりました。八時五十分頃になるゝ、背中が縦に割れ、割れ目がスリッミ擴がり、其處から淡い赤紫色をした胸が出て來ました。續いて、縁の眞中が淡緑で右左に淡茶のぼかしのある胸の、前の部分が現はれ、それから、頭が出て來ました。眞黒な大い眼の間に、眞赤な小さい眼が三つあります。時計を見るゝ九時でした。それから、だん／＼脚が出て來、縮んで小さくなつ

てゐる翅も出ました。翅は真白で、筋だけが緑色です。胸の腹側には、白い紐のやうなものが一三本ついてて、殻の内側に繋つてゐます。九時十五分頃、脚が皆抜け、腹の先きを殻の中に入れたら、倒さにぶらさがりました。さうして落ちないのか、實に不思議です。そのまま十五分位殆んど動かずになりました。多分體を乾かして、硬くなるのを待つてゐるのでせう。九時三十分頃、一二三遍體を振つたかと思ふと、體を起して殻にしがみつきました。同時に、尻が殻から抜けました。その形は、全體に白くて、色が淡くみづくしく、軟かさうで、脱には金色の粉が散つてゐます。今まで縮んでゐた翅がすんく擴がり初め、五分もするご、すつかり延び切つてしまひました。あまり綺麗なので、これがあの黒つぼ

⇨ (つくつくぼうしの羽化)



(歳一十) 彩水に畫ンベ

(歳)十
毛筆畫

い油蟬になるのだとは、さうしても考へられません。やがて殻を離れて、前脚で枝にぶら下りました。十分ばかりたつと、幾分色も濃くなり、翅にも淡い斑^{うす}が出始めました。

晩くなつたので寝ましたが、翌朝見ると、黒っぽい油蟬になつてゐました」。

第五圖は所謂寫生の繪ですが、第二圖にあるやうな素の裝飾が、強く根を張つてゐる事が解るでせう。しかもそのために、油蟬の幼蟲のクリ／＼した、コロ／＼した、中味の充實した、獨自の個的存在が、よく描現されてゐるのであります。この點は、第六圖の寫眞や、動物圖鑑の插繪などに見られない味です。この繪は、白地に茶色のクレパスで描いてあるために、殻を脱け出して成蟲になる前の幼蟲の、捲いたゼンマイのやうな發展する生命が時へられてある黙^{だま}とした動きが、よく出でるでせう。つまり描現が藝術的であればあるほど、即ち人間的統一があれ

ばあるほど、昆蟲の生命に奥深く觸れる事が出來、觀察が徹底する事になるのです。觀察とは、右に述べた全的場面・全的態度の把握と言ふ事ですから。

この第五圖が進むごと第七圖になります。第七圖は、この子供が十一歳（昭和五年）の夏に、ケント紙にペンで「ツクツクボウシ」の脱け變りを描き、水彩繪具で淡彩を施したもので、第五圖と第七圖との時間の隔りは丁度一年です。第七圖を第五圖と較べるごと、一年の間に、昆蟲の觀察と描現について、子供の第一素材のなじみ方と、第二素材のこなし方即ち技巧が、進んで來た事が解るでせう。素の裝飾は、サラリとした洗練されたものになつてゐます。

第八圖は、この子供が同じ十一歳（昭和五年）の春——第七圖との時間の隔りは四ヶ月ほど前——に描いたものです。六つの畫筆紙に、刷毛で薄墨をひき、それに面相筆で柳の枝を描き、芽は水筆で群青の點を打つたものです。この昭和五年の三月、吉川雪華の遺作展覽會が、上野の寛永寺で開かれました。父子四人連れで、それを見に行つた歸り、須田町からお茶の水まで散歩しました。その途中、ニコライ堂の邊のぎっかの家の前で、芽を吹き出したばかりの柳を見たやうに思ひます。恐らくは、さう言ふものが第一素材になつて、心境の繪が構成されたのでせう。

描現がここまで來れば、十一歳の子供の繪とは言ひますけれども、これによつて、繪の大道をスケッチする事が出来ると思ひます。第七圖を見ても第八圖を見ても、寫生と所謂裝飾との二つの成分が一つのものになり切つて、素の裝飾が樂に動き、のんびりと流れてゐる事が、誰にもよく解るでせう。

右に、素の裝飾は、繪の出立點であるごと同時に歸着點であり、人類の繪はこの二つの間を往復してゐる事を述べましたが、その小さい見本、殊に行きの方が、こゝによく出てゐるでせう。そして、この繪の先きはさうなるか。

それから先きは、言ふまでもありません、専門の修業の道に入るのです。（十）の「構圖・描現・技巧の誕生」と言ふ項で、

人間の力作・大作は、複雑な構成であり偉大な組織であり、その中に立つ藝術的思惟が覆ひ隠されて、見えないほどのものであると申しました。そのため、涙ぐましいほどの無限のやり直し、血の出るやうな果てしない反復があるのださ申しました。[→]へ来るのです、この人間的構成の描現へ来るのです。そして、こゝから——絶えず神品的の構成や子供の繪の構成に牽かれながら——人間離脱の描現へ抜けるのです。これが歸り道です。たゞへば、(十一)の「陶器の技巧」^ミ言ふ項で述べた無爲の技巧や初心の技巧の境地へ、前號に掲げた第四圖の描現のやうな境地へ到達するのです。これが終點です(一一・二・二六)。

保育・教育連絡の一実験

白根孝之

一

ここに紹介する報告はイギリスのグラッドフォード州プリンスヴィルに於いて一九三〇年以來試みられた一実験の結果である。イギリスの幼児保育制度その内容に就いては嘗つて本誌上に紹介したことがあるが、一九三〇年以前のプリンスヴィルに於いては、戦後建てられた保育學校 *Nursery school* 二乃至五歳までの幼兒を收容し、五乃至七歳までは幼兒學校 *Infant school* と稱する獨立の機關があつて、小學校の最初の教育を施してゐた。幼兒學校は他の州では多く幼兒科 *Infant class* と稱して小學校の最初の一ヶ年を形成してゐるものである。一九三〇年にグラッドフォード州の教育當局はこの二つの機關の間の有機的な連結によつて保育から教育への推移を圓滑ならしめるためにマックケンニー氏をその任に就かしめ、保育學校と幼兒學校を一つにしてこれを保育幼兒學校 *The nursery Infant school* と稱して今日にいたつてゐるが、最近の『新世紀』誌 (*The new Era, in School and Home, 10, 1935*) 上に於いてマックケンニー氏はこの實驗の結果を次のやうに報告してゐる。

二

保育學校といふのはイギリスでは極めて新しい歴史しかもたない制度であるが、これに對して幼兒學校といふのは既に

かなり舊い傳統を有する設備である。そのため、當然考慮されていゝの一つの設備の聯絡といふ問題が不思議と閑却されて、兩者は獨立の設備として別々にその活動を營んで來たのである。一九三〇年に教育當局のボイズ氏は局内に「保育幼稚課」Nursery and Infant Departmentなるものを設け、兩者の統合連結を企てたのであるが、その任にあつた自分は、二乃至四歳、五乃至七歳の幼児に對して、その性格の形成に役立ち、人生に對する積極創造的な態度を得しめるに適した環境を造つてやるために、他の役員と共に如何なる試みをなして來たかをこゝに報告してみたい。

我々の目的は保育學校と幼兒學校とを有機的に結びつけて一から他への移行を自然に圓滑に行はしめるにあつたのであるが、先づ第一の方針としては、幼兒學校の方を保育學校に振向ける、換言すれば初等教育の初期を保育化するといふ道をさうした。そのために保育學校の目的と實際とを更に検討明確にし、幼兒學校の從來のやり方を改革しよう努めたのである。そこで具體的の試みとしては

- (1) 先づ別々に存在する兩者の建物を一にし
- (2) 保育、教育の當事者を一つのスタッフに結合し
- (3) 何時保育學校が終つて、何時幼兒學校が始まるのか、その年齢的な區分を撤回し
- (4) 保育的な方法を幼兒學校期にまでも持續し、ためには五歳になつても要すれば午後も學校に止めて給食を行ひ
- (5) 保育上の衛生及び診察の制度を幼兒期にも擴張し
- (6) 「母の會」の趣旨を徹底しその充實を圖る等のこととに全力を傾けて來た。

兩者の結合には建築や設備の上に一大改造が必要であつた。校舎は南面し、子供の使用する部屋はどれも最大限度の日光を吸收し得るやうになつてゐる。そしてフランス式の廻轉窓は一瞬にして各部屋を外氣に通じてオーブン・エア・ルームにする。天候の故で廻轉窓が閉ざされた時でも常に十分の清淨な空氣を保ち得るやう換氣装置に十分の工夫を凝らした。浴場は數ヶ所に設けたが、十分の廣さをもち、明るくて、且ついつでも多分の熱い湯を準備してゐる。浴場には各兒童の衣服かけ、洗面器、シャワーの備へられた低い大きな浴桶がある。各浴室の中間には更衣室、所持品置室があつて變方に通じるやうになつてゐる。

各兒童毎にベッドの設備があつて、使用せぬ時のためには四つの部屋が當てられてゐる。

遊戯室には四方に低い玩具戸棚があつて、子供達は自由に出し入れすることができる。

戸外の庭には、温室、花壇、散歩道、芝生、コンクリートの一區域(草の濡れた時のため)、大きな遊具を容れる物置き、砂場、各種運動器具等がある。

以上は身體の健全なる發育を促すために必要な設備の要點を擧げたにすぎない。これを要するに、戸外の空氣と光線とを浴びる生活、走り廻るに適した十分の廣場、休養・食事・清潔・睡眠に十分の設備といふ點が眼目である。

四

しかし如何に設備が整つても、職員團が一體をなすのでなかつたならば、何の效果も擧げることは出來ない。そこでスタッフの一致いふことは職員團の會議、各自の活動の見學、更に進んで受持任務の交換といふことによつて十分にその效果を期せんとした。仕事の上の興味・困難・問題等は全ての職員を會して熱心に討議研究される。五歳の兒童の受持ち教

員が四歳の保育學校の子供を専任保姆の助言と協力の下に一ヶ年受持つ。相互の見學は更にしばく行はれ、これによつて年長兒童の受持者は彼等が一、三年前に受けて來た訓練を知るし、反対に保育學校の指導者はその幼兒が一、二年の後に與へられる經驗の如何なるものであるかを知るのである。

學校は八時半に始まり、五時に終る。この學校では幼兒學校の子供も保育學校の子供と同様に午の食事を栄養士の手になるものを支給される。職員も亦全員子供と共に食事をし、放課後の準備や整理もたゞに受持ち職員だけでなく全員が分擔する。

子供は年齢によつて學級に區分されるが、こゝでは精神年齢の點が重要な要素とされる。そして高い程度の自由が許され、興味次第で卒業に所屬する群團以外のグループに入るこゝも出來る。食事や溫浴や睡眠は、しかし乍ら規律と秩序を守るために一定の組織に嚴に従ふやうに命ぜられる。

過去に就いては保育學校といふのは一歳から五歳までの子供に限られてゐて、醫師が身體的に尙早なりと診斷したものの他は五歳以後保育學校に止まることは許されなかつた。二つの學校は全然獨自なものとしてその間に何の有機的結合もなく、幼兒學校に移つた子供は全然異つた環境の中へ入れられて度を失ふことが少くなかつた。

プリンスヴィルの學校では兩者は事實上一つの建築物と一つの組織とに融合されて、かうした分裂は見られない。子供が眞にそれに對する準備が出來た時に始めて新しい經驗が始まるのであつて、環境の氣分にも何ら急激な變化はなく、生長の上の有機的連絡性は少しも斷絶することがない。かくして始めてこの重大な人生の第一歩は健全に踏み出されるものと我々は信じてゐる。

弱い子供は精神的にも肉體的にも十分の發育を遂げて讀方・書方・算數の術に對する自然の憧れと要求を感じ得るやう

になるまでは、温かいいたはりの雰囲氣の中に止まるこゝを許される。これに對して精神的にも目覺め、肉體的にも適當と思はれる子供は五歳を待たずして幼兒學校のクラスへ進むこゝが許される。この推移期にあたる一二年間には幼兒學校の子供、保育學校の年長(精神的に)児童が一通りの群團は作りつゝも常に相接觸して共在する。一般に四歳から七歳までの子供は達成欲の最も旺盛な時期で、それだけに教育上最も注意を要する時代である。讀・書・算の初步技術は最大限度の自由選擇の許可の下に、豊富雑多な遊具を與へて教へられる。子供達は最も自然な自分の速度に於いてこれ等の知識と技能を得ることが出来るのである。このプランの實施には極めて融通性のある時間割があるだけである。

推移期の學年では保育學校の初期の幼兒が喜ぶやうなお話し、音樂、唱歌、色がみ細工等が、そのまゝに斷絶することなく使用される。

五

この制度によつて幼兒學校の子供は從來と較べて實に少なからぬ利益を與へられる。溫浴、洗面、遊戲、運動、頭髪の手入れ等は保育學校から引つゞいて彼等に許される。兩親に向つては、午食を學校でこらせるやうにこすゝめられる。學校の食卓では各人の健康に留意した食事の他に、食卓の作法・行儀・自分のことは自分で行ふ正しい習慣がつけられる。午食の後には快よい眠りが待つてゐる。學校に於けるすべての活動は、出来るだけ多くの太陽光線と清新な空氣の中で行われる。夏期にはシャワー・バスを存分に使用する快味が味はれる。汗をザーッと洗ひ下した後は庭園に出て太陽の光線を存分に浴びることが出来る。學校醫の手で引きつゞき懇切周到な健康への顧慮がなされる。かうした恵まれた環境の中で被等は知識慾の目覺める人生への第一歩を自然のまゝに心樂しく辿ることが出来るのである。

最後に保育・幼児學校の仕事はその目的が家庭の中に取入れられ、家庭の共同作業がなかつたなら效果は半減する云々といふ。若し學校と家庭との協力がうまく行はれるなら、これによつて利するのは家庭ばかりでなく、學校はより大きな利益を得ることが出来る、教師が子供をすつかり理解するためには學校だけの時間では足りない、この學校教育達成上の家庭の意義といふことは、自明の理であつて然も久しく人々の見逃して來た問題である。學校はあくまでも教育の場所である。従つて學校はその唯一の存在理由を達成するためには出來るだけの努力、あらゆる試みをなさねばならない。これは知れ切つたことである。若し學校が家庭の協力なしにはその仕事の半分しか行ひ得ない云々すれば、家庭の協力を求めずして半分の仕事に満足してゐることなく、進んでその效果を滿たすために家庭を活動の中に引込むべきである。

「母の會」はプリンスヴィルの保育幼児學校が先づ第一に手をつけた試みであつて、その效果もでき面に上り、學校と家庭の雙方に亘つて實にすばらしい成績を擧げて來た。我校の「母の會」は凡ゆる子供の母父兄を會員とし、毎土曜日に會合を開き、學校側からは全職員が出席する。兩者は等しくクラブの一員といふ資格で出席し、教師は母親からその子供に就いて多くのことを學び知り、母親はその子の教育に關する問題を持ち寄り、又彼等の學校に於ける生活に就いて聞き取ることが出来る。「母の會」は會員の據金によつて維持されるが學校の仕事に對する理解が深まる共に積極的な後援を惜しまぬやうになり、昨年中には大きな玩具や映寫機、ホールの敷物等一〇〇磅の寄附を受けることが出來た。

子供を通して我々は兩親を知り、兩親を通して家庭を知るのであるが、かくして學校はこの地方に於ける眞の社會施設となりつゝあるのである。

兒童心理學文獻抄 十六

牛 島 義 友

積木と粘土細工

ハ 方向のある積み方 直線の形に並べられる。

ニ 規則的な並べ方 同じ形の積木丈とが、二種類の積木を交互に並べる等の一定の規則を以て並べられるものホ 相稱的な並べ方 右左同じ形に積上げたものヘ 圖面的 平面上に並べて形を作る。

ト 家等の物の形

チ 積木の集團 村や町等をこしらへるもの

以上の様な色々の積み方があるが、最も多いのは「ト」の如き形の表現であつた。併しもう少し小さい子供の場合は「ロ」か「ハ」かの積み方が多い。

イ 累加 積木を無選擇に無規則に並べたり積上げるもの

ロ 方向のない積み方 一つの積木を注意して並べる

が別に何の形も構成されないもの

彼は三歳から六歳までの幼兒十二名宛に積木をさせた、其遣方は自由製作、口で命じたものを作らせたり、手本を見せたり、描かれた手本を用ひたり其他の方法である。

自由な積木の場合からその發達を考察して三つの段階を立てる。

一、一個宛の積み方、最も原始的な積み方は無選擇に

多い。

れかの積木を拾ひ上げて並べたり重ねたりするが、全く何

男 女
建物 七一 六五
乗物 四六 三三
建物の一部(戸、階段) 九 八

から次の積木の場所がきまり、此の偶然の形から又次の形

男 女
家具 三 一八
その他事物 五 一一

が規定されるといふ風に唯一個々々を積んで行くのである。或ひは唯積む事にのみ興味のある段階と云つてもよい。

男 女
生物 二 一四
○ 九

二、全體の形を豫想する積み方、前の様な積み方を繰り返してゐる中に子供は出來上る形を豫知し乍ら積んで行く

男 女
生物 二 一四
○ 九

様になる。前の場合は一つ置いてはゆづくり並べるといふ

男 女
動作(歩いてゐる所等) 一 一

風な断片的の行動であるが、今度は目指してゐる簡単な形が出来る迄は一系列の行動として營まれる。併し此の場合の出来上った形にはまだ意味がなく少くもはじめから汽車とか家とか云つたものを作らうといふ目的を以て作られる

のではない。故に出來上った形を見て後から「あ、汽車が出來た」と云つたりする。
三、表現的段階、はじめから一定の物を表現しやうとして構成して行くもの
如何なるものが表現されるかを見るに家とか汽車が一番多い。

子供の製作物を美的の點から眺めるに年長の子供に於ては積み方がきちんととしてゐるとか、努めてシムメトリーの形を作らんこしたり、或ひは全體的に纏りのある形にしやうとする。例へば家を作るのに一つの積み木丈を端の方に

クラウテル・學齡前兒の粘土模型

餘計に付けたり、不恰好な位置に置く事がなくなる。又積木に色のついてゐる場合には色をも考慮して並べる。併し適當なものがない時には色は犠牲にしても形の揃つた方をえらび、色よりも形の方が重きをなしてゐる。

次に積木をしてゐる時の態度を見るに、或る子供は一つの形が出来るごとに手を止めて眺め樂んでゐるが、他の子供は一つの形が出来ても休まらず更にその上に色々の形をつけ加へてらん／＼大きくして行く。即ち前者は構成された形に興味を持つタイプであり、後者は構成する事そのものに興味を持つ型で一般に年少な者に斯るタイプが多い。

その他手本を見せて作らす場合にも色々問題があるが立體的に積まれた手本の場合は易しいが、平面的に描かれた形を手本として作るのは遙かにむづかしい。

その他子供が積木を作る時の行動や色々苦心して手本通りのものを作らんとしてゐる工夫状態を見るにその精神状態、知能の状態が推知されるので、知能検査に用ひる事もある。

次に粘土細工の發達にも似た様な状態が見られる。

D. Krautter Die Entwicklung des plastischen Gestaltens beim vorschulpflichtigen Kinde Beih. 3. Zeit. angew. Psychol 50, 1930)

託児所に居る一歳から六歳までの幼兒五十名に自由に粘土細工をさせて研究をせたのであるが、先づ最初の發達段階から説明する。

第一期 一三歳以下の幼兒に粘土の塊を與へても唯それを机に叩き付けたり、拾ひ上げたりするだけで特殊な目的なしにごねみて居るだけである。併し其中に偶然に出来て来る形の變化に注意する様になり、自ら進むで形を變へようとする。此時先づ現れて來るのは塊から一片づゝちぎり取つて行く分節的な遣方で、いきなり丸ごとか棒を作る所作ではない。次に此ちより取つたものを積重ねて柱を作つたり、臺に並べてみたり、或は一列に並べて喜んで居る。此時にも未だ何か形を構成しようとして居るのではなく、唯並べてみて何か綺麗な形を作るだけで謂ば原始的裝飾をしてゐる云ふ事である。

かお家等の命名する事は未だ起らない。

1 次に土塊から或形を作る様になるが最初の形は圓盤である。規則的に押したり、投付けたりすれば其中に圓盤形のものが出来上るがそれを見る子供は喜んで「あゝお

菓子だ」と叫んで、何度も同様のを作らうとする之は平面的な形の基礎になるものである。圓盤の輪廓が不規則な形に出来上る、今度は大だと云つて尾をくつ付けたり目を開けたりする。

2 次には圓筒形を作る様になる。両手を同じ方向にリズミックに動かしてをれば出来て来る形で、此形からやがて木や人間や飛行船が作られて來るので立體的なもの、基本形である。

3 此圓筒を更に曲げる、弓形や輪が出来る。

4 球を作るには手を規則的に廻さねばならないので一層發達した段階である。

5 皿形 圓盤の中央を凹ませたり、縁をまげて更に皿の形を作る。

6 六面體 之は家を作らう等の意圖が生じる様になつ

て始めて作られる形で第一期の最後になるものである。

以上の時期は何を作らうとの意圖が先にあつて其形を作るのでなく、出来上つたものを後から命名し解釋するのである。

第二期 前期で圓盤、圓筒、球等の基本的製作技術を習得する、之を以て人や木を作るが、繪畫の場合には人間を描くのが最も多いが、粘土の場合には其他動物、木、乗物、家、器具、食物等種々な物を作つて非常に豊富な種類が見られる。此事は粘土細工の方が描畫よりも表現が容易である爲である。又其製作したものゝ形、釣合等も繪に較べるゝ遙かに客觀的なものに類似して居る。此理由は繪の場合には立體的なものを平面的に表現せねばならぬので困難であり、之に對し粘土の方には斯る困難が無い爲である。斯る故に幼稚園児の創作力を養ふ爲には繪よりも粘土を用ゆる方が適當と云ふ事が出来る。

さて然し彼等は初めからちやんとした人や犬の形を作る譯ではなく種々な段階を経なければならない。

「人が出來た」と云つて誇示する幼児の藝術品を見て思は

す噴出するであらう。其處には不格好な棒が一本ぼつんこ臺の上に立てられて居る。之が最初の人間である。即ち茲では先づ對象の持つ基本的な特徴が表現される。人を現すには細長いこ云ふ事、机なら平たいこ云ふ事、飛行機なら翼

こ胴體こが交錯して居る事が基本的特徴で、その點だけが表現されるのである。次に方向性が表される。即人なら垂直の位置に立てられ、犬なら同じ棒が水平に置かれる。更に發達するこ水平の棒は犬の胴體を意味し垂直の小棒は四肢を意味する様になる。

るものゝ本質が表現されるのである。
此の頃になるこ子供はカリカチュアを作つてその想像を喜ばせたりする。例へば長い鼻をつけて天狗さんが出來たこ云つたりする。

以上の積木こ粘土細工は子供の表現力を涵養するに適してゐる。併し子供は間もなく思ふものが作れないで、即ち表現技術が不充分の爲に意圖してゐるものを作り出さないので悩む。此の場合必要な製作技術は粘土の場合は確實にして精緻な指の動きで、之から藝術製作に發展して行く。積木の場合には安定にして發展性のある積み方であつて智的な要素を多分に含む。

次には一本の棒の代りに二個の土塊を合せた人間が製作される。上の塊は頭で下の塊は胴體である。之を頭胴人こ名付くれば、其他頭足人も居る。此段階は前より更に細かな特徴が表現されるが、其遣方は質的に精密化して行くではなく色々なものを量的に附加して行くのである。人には手足が附加され、木には枝が、飛行機にはプロペラが附加されるので、附加される胴體は以前こ同じ不格好な棒なのである。此の不恰好な棒の位置こが方向によつて手足或ひは動作が立派に表現される。之によつて彼等の抱いてゐ

幼稚園の修了式・入園式

く跡を示す。

- 成績物及記念寫真等を保護者と共に小学校への入學を希望し、樂しく持ち歸る。

「あなたの幼稚園では入園式と修了式を

いつどの様になさいますか」と、各地の幼稚園の方々にお尋ね致しましたところ、

左の様にお返事下さいました。順序不同でござりますが御紹介いたします。

編輯部

- 幼兒及職員、幼兒保護者着席
- 一同禮
- 唱歌「君が代」
- 學校長證書授與
- 學校長訓辭
- 唱歌「修了式の歌」
- 一同禮
- 幼兒及職員、幼兒保護者退席

幼稚園

入園式（午前九時半始）

一、幼兒及職員、幼兒保護者着席

（爲暫くの間舊幼兒に唱歌や遊戯などをさせる）

京都市城巽幼稚園

修了式

1、三月二十三日、小學校講堂に於て、修了兒保護者、學區內學事關係者參列。

3、保護者會。入園前可然日に保護者のみ來園を求め、保育上の相談及意見の交換をなし置く。又當園幼兒の實生活を映寫により紹介、保育方針の理解を深め置く。

京都市永觀堂幼稚園

一、修了式

本年の修了兒は百二名にして修了式は三月二十日の豫定であります。當日は修了兒

陳列特に自由販賣（入園當初のもの、修了前のもの）を比較展覽して各個人の伸び行

内を致します。然して式場の準備並に案

順序などは大體左の通りであります。

(赤飯)を催します。

式は朝拜殿で致しますから其準備として
は

一、朝拜殿に於て左より一年(三組)二年

スへ終日清遊を試みる豫定であります。

兵庫縣甲南尋常小學校

附屬幼稚園

大切な入園のお祝ひ日であるから別にお祝ひの「おまんぢう」を渡します。

在園児も合して保護者一同「寶塚パラダイ

二、入園式

四月四日の豫定にて當日は新入保護者は

勿論、在園児の保護者へも案内致します。

當日は組別に各室に集り、各室にて受持保

姆から一通りのお話をなし、各組毎に運動

場などの有様を一通り案内致します。其時

は新入保護者も勿論同伴を許します。

或は修了式と同じく朝拜殿に於て行ひ其

修了式 一、時日

小學校の附屬になつて居りますので小學校の卒業式と共に三月二十日より二

十六日頃迄の日曜日に行ふ。

(父母共に御臨席を願ふ爲に特に
日曜日に行ふ)

一、式の次第

1、小學校生徒、幼稚園児、職員、着席

2、君が代、勅語奉讀、同奉答

3、幼稚園修了児に各自に修了證書授

4、皆出席園児に賞品授與

5、唱歌(修了の歌、送別の歌)

6、園児退場

保育室にて主任保姆より修了児にお話
があり其の後にて修了記念の寫真(毎

十二、お別れの歌

在園児にはお土産を渡し、式後修了児一

次に新入園児一同には在園児の手製のお
土産をお贈り致します。又幼稚園としては

十、修了兒保護者總代の挨拶

八、在園児の祝辭

九、修了兒總代の謝辭

五、園長のお話

七、來賓の祝辭

六、園主の挨拶

八、在園児の祝辭

九、修了兒總代の謝辭

十、修了兒保護者總代の挨拶

十一、お別れの歌

在園児にはお土産を渡し、式後修了児一

次に新入園児一同には在園児の手製のお
土産をお贈り致します。又幼稚園としては

年紀元節に寫し置く)在園中の圖畫帳、手工帳とお祝の紅白のお饅頭をいただいて歸る。

入園式

一、四月一日或は四月四日(卒業式の時

日により定む)

小學校の入學式と共に行ふ。

二、其の後保育室にて主任保母より入園兒及其のお母様に後の心得につき懇談的にお話をする。

岸和田市鳩巣園

修了式 每年三月二十五六日に行ひま

す。式の順序は別に變りませんが園醫様より入園後の衛生に就て注意をして頂きます。そして幼稚園を忘れない爲に日の丸に園の寫真をあしらつた保育證書を渡すことにしてゐます。式後お別れのお遊嬉會を致します。

入園式 每年四月五六日頃行ひます。新入兒には園内の事に就きお話を致します。そして在園兒の遊嬉や唱歌を聞かせます。

母姉には園の主旨及家庭との連絡につき話

します。幼兒一同には紙の國旗を與へて歸ります。

門司幼稚園

孟子の母は我が子教養の爲に三度も居を遷されました。二葉時代の幼兒が環境に支配される事は恰も水が方圓の器に從ふが様

なもので、近時幼兒保育事業が著しい伸展を遂げました事は誠に御同慶に存じます。當園も亦第二十回保育證書授與式を行ひました。

行する事が出來ました。大正五年開設以來

保育滿了兒總數は二千名を越えまして、こ

の中二三名は本年満了兒の母となつて臨席されました。尙當日は保育成績品展覽會を開催致しました。

新入園兒は四月六日に受付まして簡単な

テス^ト(氏名、年齢、住所)を行ひ附添母姉

につき、幼兒の既往履歴(身體、心性、家庭)

の詳細聞取書を作り、十日から新保育期を

始めます。尙五月中旬には小學校との連絡會を催す豫定であります。

新入園兒百八十名二年保育中心として募集

入園式

私の幼稚園式と修了式に對しお尋ね頂きまして恐縮に存じます。皆様にお話して申上げるほどの事でもございませんが實際に致して居ります事を其のまゝ申述て見ますから何卒御批判御指導遊して下さい様お願い申します。

當市立幼稚園は經歷の古いのと公立といふ關係から入園の希望者が非常に多いので大變に困つて居ります。

幼稚園とは子供達に取つて何となつかしい名前でせう。

幼稚園とは子供達に取つて何と樂しいお集りの場所でせう。

幼稚園の先生何と優しい名前でせう。道を行けば知らぬ子供達が先生來年お世話様になりますと挨拶するこの尊い天職の爲に何とか子供の爲に住みよき生活をさせてやられれば相濟まぬと思つて止みません。

入園に先立ち自二月十二日至二月末日、

新入園兒百八十名二年保育中心として募集

致します。

一日にて満員になりますから他は補缺と

して二月末日募集を切ります。

入園希望者は三月十日男児、三月十一日女児、心性考査

三月十三日 市立病院に於て全部の身體

検査を行ひます。一方、1 入園願書、2 入

園前の幼児の経歴及家庭状況の調査、3 入

園前の身體状況調査、4 當園として幼稚園

の大體を知らしめる爲に5 幼稚園入園希

望の御父兄へ6 市立小倉幼稚園新入園希

注意書を與へて居ります。

以上は市立小倉幼稚園の大體を理解致さ

せ、又幼稚園入園に對しては今迄の生活

と變化があるので親も子も心構へをつく

り、入園前にどれ丈が掛け頂く様に申し

ておきます。當園に入園頂くのに前から親

が子に對して色々と考へ、度々の接觸によ

り幼稚園といふものを理解して呉れて居ま

すので入園後親も子も心が堅く色々の方面

に大變都合がよろしい様でございます即ち

入園後、1 缺席の少ない事、2 退園の

少い事、3 納めものをきちんとする事、

4 父兄の集合のよい事、5 附添が一週

間位にてほとんどなくなる事、6 遅刻せ

ぬ事、7 辨當は自分で持つて来る事。8 獨立心強く送り迎へを待たぬ事。9 募集

公告は門前の立看板一枚にて手數を要せぬ

事、10 泣く子少く用便は立派に一人です

る事等

私赴任後十六ヶ年ほどになりますがきま

りのよくなつたことには感謝いたして居り

ます。

三月二十日に入園の許不許を通知致し四

月五日に入園式を致します。大體以上の様

に致しておりますから從つて不就園も少し

様であります。獨立心の強い、子供乍らし

つかりしたくつたくのない子供を育てゝ居

ります。

入園式次第

1 玄關受付にて名簿により組分けし控室

に送る

2 出席を取る、用意の席に父兄と共につ

かしむ

3 遊戯室に集会、組の順により、式

（イ）敬禮（ロ）君が代（ハ）父兄注意

事項につき園長、注意書配布

（ニ）幼児を前に父兄を後に分けて幼兒

とお約束（ホ）既知の唱歌（ヘ）先生

の紹介（ト）お歸りのお唱歌

（4）金剛石の歌（父兄）

（5）敬禮

（6）閉會

修了式

始あるものは終りがあります。四月から

苦心して育て上げた子供達は三月には修了

してしまひます。何と悲しくり返しでせ

う、人變り年うつりてなつかしい子供達を

送るかと思ふと涙なしには居られない毎年

のくりごとであります。よい子強い子から

こい子として春夏秋冬心をくだいて育て兩

親の再教育と相まつて共に共に手を取つて

進んで來ました丈に物かなしい一方、幼兒

達の幸先を祝ふ修了式であります。目出度

悲しみであります。この記念すべき修了式

は嚴肅に致します。幼兒生活の別れ目、學

校生活の第一歩心に強く歩み出してくれよ

と念じて送ります。

贈り物をなる可くたくさんにと思つて

1、教科書 2、祝饅頭 3、祝菓子

4、卒業證書

外に精勤者にはランドセル、精勤證を與

て居ります。父兄に粗品を差し上げます。

本年は三月十八日午前十時當園にて左の様に舉行致します。

一、開式

二、敬禮

三、君が代

四、修了證書授與

五、賞狀授與

六、修了の歌

七、園長訓辭

八、お別れのお言葉

九、來賓祝辭

一〇、父兄祝辭

一一、送別の歌

送別會

以上

一二、敬禮

一三、閉式

思ふ様に書けませんが以上の様な方法で致して居ります。

主客打窓いで祝賀會を催します。

修了式

式順

當園では三月二十一日に左の順序により修了式を舉行致します。

四月六日に取行ひます。

前日までにお部屋の飾り下駄箱帽子外套掛等にも名札を貼り運動具及玩具の用意もなし置き布度その頃満開の園周園の櫻のトネルには短冊ポンボリ等を吊し歓迎準備なる、當日子供達は父さん母さんに伴はれ嬉々として集る。

入園式

午前十時

着席

敬禮

勅語奉讀

證書授與

園長訓話

來賓祝詞

保護者挨拶

師恩合唱

一、閉式

此の日當市保育關係の方々日頃精神的後援してゐて下さる方々それに保護者の方で幼稚園にしては珍らしく多數參列して下さいます。式後一同紀念撮影をなし子供等は各自紀念帳アルバム(幼稚園生活)紀念品祝の菓子箱等數々のお土産品を抱え只嬉しそうに先生サヨナラ〜(別れとも知らず)。

午前九時一同を式場に集め先生の引合せ

舊園児との顔合せをなし園長簡單に訓話を

なし後早速組分けをなし手洗場及携帶品の

置場を示し、別室にて舊園児の唱歌遊戯を

見物し舊園児からの贈物(手技製作品)祝の

菓子等貰つて散會する事になつてゐます。

保護者には前に詳しく述べて置きました。

鹿児島市錦城學會幼稚園

修了式 来る三月十九日午前十時より行ひます。當日は學會長及法人役員及各小學校長其他來賓保護者列席の下に、百八人の修了兒に證書を授與致します。

式 順

一、着席、一、國歌合唱、一、證書授與、

一、賞品授與、園よりは皆勤者及び缺席三日以内の者、母の會より全體へ(祝品)一、園長告辭、一、來賓祝辭、一、在園兒祝辭、一、保護者送別の辭、一、修了兒謝辭、一、保護者謝辭、一、唱歌修了の歌(修了兒)、一、同敬禮、一、退場。

修了兒及保護者一同へ茶菓を呈す。尙午後は保護者會及母の會幹事と保護者との送別會があります。

入園式 四月十日に行ひます。

其日はいつとも同じ、御母様方からはない

れない御子さんも二三ありますので、充分な事は出来ませんがどうやら定の御席につかれます。と君が代などは合唱が出来ます。園長の歓迎の辭や幼兒の歓迎の辭、來賓の祝詞等あり、在園兒の遊戲など見せ、

兼ねて作り置いた可愛い御手製品やお菓子などを上げてお歸りに致します。

式後(幼兒保護者式のまゝの座席)保護者別れの辭を述べ、終つて一同園會に移りお名残りの會の催しをいたします。滿期園児と在園児との記念品(幼兒の製作品)贈呈の交換御挨拶など交して園児の作業に移ります。在園児期滿園児代る(思ひ)に唱歌遊びお話、小さい劇など全幼兒出演いたしました。一年間共に生活した保護實習生の遊戯なども加はり保護者と共にによる遊び樂しみなつかしみ合ひ最後に疊のお部屋に集り粗末ながら茶菓を共にして充分語り合ひます。午後一時半頃散會の豫定でござります。

千葉女師附屬幼稚園

(一) 滿期園児證書授與式

期日 三月十八日午前十時

式場 本校講堂

式 順

一、幼兒着席

二、保護者着席

三、來賓着席

四、一同敬禮(樂音合圖)

五、唱歌君が代(一同起立)

六、滿期園児保護證授與(保育年別男女)

別起立總代に授與

七、園長お話

八、主事お話

九、來賓お話

一〇、滿期園児總代答辭

一一、唱歌 師の恩(滿期園児起立)

送別の歌(在園児起立)

一二、一同敬禮(樂音合圖)

一三、退場

式後(幼兒保護者式のまゝの座席)保護者別れの辭を述べ、終つて一同園會に移りお名残りの會の催しをいたします。滿期園児と在園児との記念品(幼兒の製作品)贈呈の交換御挨拶など交して園児の作業に移ります。在園児期滿園児代る(思ひ)に唱歌遊びお話、小さい劇など全幼兒出演いたしました。一年間共に生活した保護實習生の遊戯なども加はり保護者と共にによる遊び樂しみなつかしみ合ひ最後に疊のお部屋に集り粗末ながら茶菓を共にして充分語り合ひます。午後一時半頃散會の豫定でござります。

(二) 入園式

期日 四月六日 午前十時

式場 本校講堂

式 順

一、幼兒保護者着席

二、一同敬禮(樂器合圖)

三、舉式の辭

四、入園幼兒氏名點呼

五、園長お話

六、主事お話

七、保母の紹介

八、敬禮(樂器合圖)

九、退場

式後保母明日からの實際保育についての注意を二三お話しして後新入園児歓迎並に親睦の意味合で舊園児の作業を少時間いたし後保母の手になる製作品をお土産として御わがちいたします。

以上

東京市立淡路幼稚園

修了式

三月二十五日、午前九時より小學校低學年の式と同時行ふ。式後保護者、修了兒、共に保育室にて茶話會をなす。

入園式

四月一日午後一時 講堂にて

1、君が代 2、園長先生御話 3、保

母の紹介式終つて保育室その他案内祝菓子をお土産にいただいて歸る。

東京市本郷區第一幼稚園

入園式(四月一日)

一、半數を入れて、手あきの者總掛で一週間に大體馴らします、次に残の半數を入れて又馴らします。一週間後全體を四組に分け近く細く分け六組に致します。
修了式(三月二十日前後)
區長庶務課長、教育主任當園後援會長幹事其他本郷區小學校長區名譽職を招待し、(但し出席者は區長後援會關係者二三校長位)ます。

東京市竹町尋常小學校 附屬幼稚園

入園式は四月二日午前十時より舉行いたします、新入園児及保護者のみ集ります。

1、開會の辭
2、園長の話
3、保母紹介
4、組分け、幼兒は外へ出し保護者のみ
5、後援會長の話
6、主任保母の話
7、歸宅

滿了式 三月二十三日午前十時より
證書授與式 保護者、來賓招待、餘興、
各組のお唱歌、遊戲、幼兒の談話、人形芝居等、祝菓、區のお菓子包、記念品、卒業記念寫眞帳幼兒自由畫、製作品等。

1、開會の辭
2、君が代

3、證書授與

4、園長の話

5、祝辭

6、園児挨拶

7、修了式の歌

8、父兄謝辭

9、閉會の辭

四、國旗掲揚（式場に國旗掲揚臺あり園児二名にて行ふ）。

五、君が代

六、保育報告（一ヶ年間に保育行事に関する報告を園がなす）。

七、修了證書授與（一人づついたゞきに

する）。

八、記念品授與 總代（園からお祝ひに

全園児に記念品を與へる）。

九、賞品授與 總代（一ヶ年間に缺席三

日以内の者に與へる）。

十、園長式辭 總代

十一、來賓祝辭

十二、修了兒謝辭 總代

十三、送別の挨拶 總代（修了兒、在園兒）

十四、修了の歌

十五、修了兒を送る歌

十六、國旗降納

十七、敬禮

室に於て）

一、在園児職員入場

二、新入園児の保護者入場

三、學校長入場

四、新入園児入場（一同拍手歓迎）

五、入園児氏名呼上げ

六、お話（學校長）

七、歓迎の辭（在園児代表者）

八、唱歌遊戯（在園児）

九、一同敬禮退場

修了式（三月十九日、木午前十時から當

園遊戲式に於て）

一、職員園児入場

二、來賓保護者入場

三、學校長入場

四、一同起立敬禮（樂器合圖）

五、唱歌（日の丸の旗）樂器合圖

六、修了證書授與（學校長一名づつ）

七、お話し（學校長）

八、別辭（在園児代表者）

九、答辭（修了園児代表者）

十、唱歌（修了園児を送る歌）樂器合圖

東京市 京橋昭和幼稚園
長より
簡單に
園児へのお話
保護者への挨拶
級別と受持保姆の紹介
ありそれで式を終り直ちに各保育室に入
る。
保育修了式（三月廿三日十時舉行）
式の次第
一、昭和神宮參拜（屋上にお詫びしてあ
る神社に參拜す）。
二、式場入場（園児職員來賓保護者）
三、敬禮

岩手縣女子師範學校

附屬幼稚園

入園式（四月六日午後一時から當園遊戯

室に於て）

一、在園児職員入場

二、新入園児の保護者入場

三、學校長入場

四、新入園児入場（一同拍手歓迎）

五、入園児氏名呼上げ

六、お話（學校長）

七、歓迎の辭（在園児代表者）

八、唱歌遊戯（在園児）

九、一同敬禮退場

修了式（三月十九日、木午前十時から當

園遊戲式に於て）

一、職員園児入場

二、來賓保護者入場

三、學校長入場

四、一同起立敬禮（樂器合圖）

五、唱歌（日の丸の旗）樂器合圖

六、修了證書授與（學校長一名づつ）

七、お話し（學校長）

八、別辭（在園児代表者）

九、答辭（修了園児代表者）

十、唱歌（修了園児を送る歌）樂器合圖

十一、唱歌遊戲（在園兒修了園兒適當に）
十二、一同起立敬園（樂器合圖）

十三、學校長退場

十四、來賓保護者退場

十五、職員園兒退場

青森女子師範附屬幼稚園

修了式 三月二十四日、小學校と同時に行ふ。

入園式 四月四日 小學校と同時に行ふ。

新潟縣長岡女子師範學校
附屬幼稚園

修了式は毎年本校の卒業式の前日にいたしてあります。本年は三月廿三日でござります。例年の式の次第を記してみませう。

- 一、一同着席—敬禮
- 二、君が代合唱
- 三、證書授與……一人々々
- 四、精勤賞授與
- 五、園長のおはなし
- 六、祝辭—來賓、主事、保護者總代

七、在園兒代表のお祝ひの言葉
八、修了兒代表のお別れの言葉

九、卒業の歌

十、敬禮—退場

當日はいつもお母様方の出席が多いのですから、特に父様方にもお出で戴くやうに御案内いたします。式後に幼兒最後の學藝會並に茶話會をいたします。

入園式は四月七日にいたします。

數年前までは四月六日の始業式に引續き入園式を舉行いたしてなりましたが、どうも都合が悪いので四月六日に始業式を、翌七日に入園式をすることにしました。

この日は園長先生のお話、主任保姆のお話などあり最後に在園幼兒のお遊戯を見、祝葉をいたゞきお歸りといったします。

靜岡市 靜岡幼稚園

拜復、當園の入園式は大抵次の様に行つて居ります。

- 入園式 日時 四月六日午前九時三十分
- より受付にて徽章を胸につける（組分けのリボン）
- ・次起立 總代受領

入場、幼兒は各組別に大體まとめて付添とは別々前方に坐らせる。付添幼兒の方へ着席

敬禮 爵士が代

園長御話 子供へ 付添へ

敬禮 退場

備考

一、入園後の心得の細い事は、各組にて受持より話す。

二、人數多きため、準備その他大分時間もかかり以上にても午前中を要す。

三、殘留兒の歓迎のための唱歌、遊戲等は全部翌日へ廻す。

修了式 三月二十六日 午前十時

來賓 市教育課長、市内附近小學校長、市内幼稚園長

入場 幼兒は卒業番號順に着席

保護者は幼兒の後方に着席

君が代

勅語奉讀

保育修了證書授與、番號順によみ上げ順

記念品授與、等一用のノート等約五錢位

のものを一同へ

賞狀及び賞品授與(皆出席者)

賞品は紙はさみ等約三十錢位のもの各

自授領

園長御話、幼兒へ、保護者へ

來賓祝辭

答辭 幼兒總代男女各一名づゝ

二名 職員へ

保護者總代の挨拶

保育修了式の歌

敬禮

退場

備考

式後祝の菓子一人五錢づつ與ふ

年少組の幼兒との告別は前日に行ふ

福島縣

郡山幼稚園

昨日まで家庭のお母様の膝許で自由に遊んで居た全く白紙の様なものが今日から小

さいながら社會生活、團體生活に入る第一

歩なのですから幼稚園に於ける入園式は餘

程深い注意を以てその第一印象をよい感じ

の上に行ふことに努めねばなりません。
それで當園では毎年四月三日の神武天皇祭の佳き日を期して行ふ事にして居ります。
その日の模様を申しますと、式場を華かに裝飾いたし、一寸這入つただけで好感を呼ぶやうにしてあります。各保育保育室に玩具や遊具などを並べて置いて新入園児を歓迎するに十分ならしむる様準備しておきます。

當日は大抵お母様に連れられて嬉しさうに樂しみ勇んで門を入つて参りますので保姆は入口で待つて居ましたといふ氣分で笑顔を以て迎へます。

午前九時半(若しくは十時頃)式場へ年少組の幼兒を入れて前方に並ばせます、先づ遊び方の見本とした様な格なのです。新入園児は附添の方と只譯もなくその後の方に無難作に着席させます。レコードによつて「君が代」の唱歌を奏します、静肅の中に新音を與へ氣分を和やかに致すのです。

園長先生には和やかな氣分で一同に御挨拶があり名簿によつて幼兒等の名前を一々

呼びあげて返事を求めます。これが幼稚園に於ける呼應の最初です。ハツキリした返事を變め、返事の出來ない子には附添の方に代つて返事して頂きます。園児になつたといふ一種の譽ひです。次に幼稚園は樂しいものである事を事實の上にお話がござります。幼兒達はそこで希望と喜びに満ちています。それから園旗や組の旗を示されたり、保姆の紹介があります。而かもユーモア交りに簡単になされまして式は終ります。續いて二年児から新入園児歓迎の意を以て遊戲をしてお目にかけます。今迄年少組であつた二年児はもうすつかりお兄様お姉様氣取りで眞剣に種々の演技をいたします。入園児の中には釣り込まれて未だ解らなくとも歌ひたい様に伸び上つて口を動かして居る児もございます、そしてこれが済むと保姆の人形芝居の面白い一幕を演じて見せるのです、まあ盛りたっぷりの催しが展開されます。

こうしてお母様と樂しかつた催しに打ち

ら一寸したお話しがあつて明日を約束して解散するのであります。

そのお歸りにはお祝ひとして保母の手からお饅頭を渡されます。何れもニコ～として母子揃つて手を引き合ひつゝ機嫌よく歸つて行きます。

尙入園式の數日前には身長検査日として登園いたし順々検査の上組の徽章を頸いて歸りますその日にはお土産として幼稚園で作りましたものを與へて居ります。

満了式は幼兒等にとつて幼稚園生活の最後の印象であり幼い頃のなつかしい思ひ出となるものであります。

庭の櫻も未だ蕾の頃お母様につれられて初めて幼稚園の門をくぐつてからこの日ま

での一年間考へて見ますればあまりにも短かい一年の月日でございました。保母ともじては及ばず乍らも毎日手鹽にかけて育んだ可愛幼兒等と別れるのですから嬉しさ、悲しさ、何とも云へる感慨が胸一杯になりきつて参りますが頑はない幼兒にとつてはそんな氣分はさら／＼なく、もう激測たる希望に燃えて小學生の姿を心に描えて嬉々と

して居ります。準備と申しましても式日の前とその日の分とに分けて手筈をきめるのでございます。

○満了児にも未了児にも當日歌ふ唱歌を夫々教へて練習しておきます。

○答辭をのべる幼兒を定めておいてその文句を家庭にも送り、兩方でその讀方を前々から良く指導して居ります。

○褒状を受ける幼兒にはその授業の作法をよく練習致しておきます。

○賞狀、賞品等の準備は申すまでもありません。賞品には學校へ入學後早速入用のものと子供向きのものについていろいろ苦心して選定いたします。

○式場の裝飾

これは一年一度のしかも最後の裝飾といふので念入にしつらひます。この他細かい事まで當日どまつかない様に前日までに準備いたします。尙二三日前に來賓に招待狀を發送し家庭へも案内狀を送つておきます。

修了式の日は毎年一定して居りませんが

大抵春季皇靈祭を中心として二十日頃にい

たして居ります。今年は三月十九日午前十時からときめました。

當日は大勢のお客様も保護者の方も御参列下さいますので式場もいつもよりは廣々と準備いたしておきます。式の順序は

式 次

一、入場(午前十時)

二、敬 禮

三、園長舉式の辭

四、唱歌「君が代」

五、勅語奉讀

六、事務報告

七、證明書授與

八、保育證明書授與

九、精勵褒狀授與

一〇、遠路通園兒表彰

一一、多年通園兒表彰

一二、園長訓辭

一三、來賓祝辭

一四、満了児答辭

一五、唱歌「満了児の歌」

一六、唱歌「未了児の歌」

一七、閉式の辭

一八、敬禮

一九、退場

終りて茶話會を開き和氣藪々の裡に別れノ辭。

こうして式は相當に長いがいろいろと變化があるので子供には倦怠を來す事がありません。こうして式が終りますと各々保育室に入り最後の日を惜しみその名残は盡きませんが時は益々進みますのでやがて頂いたお免狀をしづかと胸に抱いて園長先生、諸先生にも別れの挨拶をして振りかへり乍らなつかしい園舎を後に去つて行きます。

四月五日午前十時舉行新入園兒は保護者附添にて門に入るや受附に於て保母より町名園児並に保護者氏名記入の木札(天保錢形)を授けられ。隨意に遊ばしめ、又保護者には園則及び注意事項の印刷物を渡し時刻至れば園児の氏名を呼び出して園舎の廊下に整列せしむ順次手拍子をうち、保育室に入つて着席初めに園長、保母の紹介、敬稱のけいこ園児と新入児との挨拶の交換終りて入園式を行ふ式順は左の如し。

毎年三月二十六日午前九時三十分舉式に際し光圓寺本堂に於て嚴嵩せられたる感謝法要へ參拜をなす。初めに來賓外一同の入場をまちて讀經はじめより焼香(職員修了兒)法話(園長)サンブツ歌の順序を以て厳肅なる法要を終り引き園舎に於て修了式を舉げ左記の式順とす。

開式ノ辭。國歌合唱。勅語奉讀。修了證書並に賞品授與。園長晦告。來賓祝辭。保護者謝辭。修了生答辭。修了式ノ歌。閉式

大分縣私立成蹊幼稚園

修了式

五月一、二日福岡市保育會主催の下に、福岡市に於て、九州、四國、中國の保育聯盟總會が開催せられます。尙同地にては博多築港完成記念大博覽會がござります。

系統的保育案の實際解説（二）

生活訓練	倉橋物三
誘導保育案	菊池ふじの
唱歌遊戲	村上露子
観察	小島その
手技	新庄よしこ
及川ふみ	小島光子

『系統的保育案の實際』は、東京女子高等師範學校附屬幼稚園の編になり、日本幼稚園協會から發行せられてゐる。昨年七月以來、既に多大の部數が、全國保育界に普遍し、熱心なる保育諸君によつて、研究せられ又實施せられてゐる。しかも、此の保育案は、舊來の諸保育案、殊に單なる羅列的保育要目と全く異なり、幼稚園保育の本義に立脚して、幼兒の生活に出發し、生活に歸着する、生活系統としての新らしき保育案であるところから、その實施に於ても新らしい研究を必要とする。又、本保育案の各項に就て、尙ほ進んで詳細なる解説を求められることが尠くない。本稿は、それ等の要求に對して同人相促し、分擔して各項の解説を試みたものである。說いて詳細を盡さないのは素より、私案私説、極めて熟せざるところが多いのを恐れる。たゞ、保育案の表示のみにては一層盡さざるを思ひ、こ

これが理解を助け、實施上の便を加へ得んことを希ぶてゐるのである。

尙ほ念のため附言するが、本保育案の本質的中心をなすものは、各項の内容よりも、保育案そのものゝ立て方にあら。内容の選擇排列も亦、一々意を用ひたところであるが、保育案としての根本の建て前を離れては、保育としての活きたる意味が失はれる。従つて、『系統的保育案の實際』を絶えず傍に置かれるこなくしては、本解説は正しき用をなすことを得ないのであらう。

年少組、第一保育期

——満四歳から満五歳——

生活訓練

第一週

生活訓練は、幼児の生活により習慣をつけることをである。

その生活は、家庭内のものは素より、社會生活にまで及びたい。しかし、幼稚園で実際に習慣づけ得るものは、幼稚園の生活である。生活訓練が先づ、斯うした目の前の身邊のこころから始めらるべきは當然である。但し、その訓練

效果は決して幼稚園内に止まるものではない。たゞへば、幼稚園で食事前に手を洗ふ習慣が眞についた時、家庭でもそうしないではゐないであらう。又、幼稚園で庭の植物を大切にすることが眞に習慣づけられた時、公園でも同じこころである筈である。習慣は、その子につくもので、或る場所や或る時に限られるべきものでない。若しそうだつた

ら、眞の習慣がつけられ、ほんとうに訓練せられたとはいへない。しかし、それは結果である。先づその着手は、こまでも、幼稚園生活そのものからである。

年少組第一保育期第一週といへば、さりもなほさず、幼稚園へ來たての幼兒達である。家庭から此の幼稚園といふ世界へ、もの珍らしさ、もの悲しさ、ここによつたら、相當の恐怖心をも混じて、つい今、はいつて來たばかりである。それへ生活訓練、これはよつぱき考へさせられるここで御座る。そこで、解説には議論は一切差し控へる。こしても、往々にして主張されるやうに、集團生活の訓練へ(それは幼稚園として必要のことであるのは素よりであるが)の急速なひつぱり方や、おしつけなぎは、少くも、相當の無理のこゝゝしなければならない。生活訓練の點の意味は、だこまでも、拗ひの型へ幼兒の行動をはじめ込めやうとするこゝではない。幼兒ひとり／＼の生活に與ふる調整と指導に他ならないのである。

こゝに舉げてある内容にも、幼兒に何か特別の訓練を授けるこゝいつた風のものは一つもない。幼兒が、どうせする

こゝに、いゝ習慣づけを導くだけのことである。そうして、これだけのことを、此の第一週の間に、習慣づけて仕舞はうといふのではない。習慣は長くかかる。此の後、引きつづき不斷の注意を拂つてゆかなければならぬ。たゞ、望ましい習慣の中にも、いつから始めたがよいかといふ問題はある。ゆつくり、數週數月の後に始めたがいゝのもあらう。その中で、幼稚園生活の最初から、方向づけてかゝつた方がいゝと思ふものを、それも出来るだけ少なく第一週へ置いたのである。この中で、「室の出入りに靴を取替へる」こゝ一項は、室内靴と庭靴を區別してゐる幼稚園に限つて必要のことである。その仕方も設備によつていろいろ異なるであらうが、いつれの幼稚園にしても、穿きもの、始末について訓練の必要なこゝは同じであらう。家庭でさへ、亂雜な脱ぎはなしは許されない譯である。「仕事の用具を自分で出し入れする」こゝは、所謂銘々戸棚があり、幼兒各自の道具入れ箱を用ひさせてゐる場合のことであるが、この設備は是非この幼稚園でも用はれたいと思ふ。これは、斯うした設備から出る訓練の必要といふよりも、斯うした

訓練(自分のものを自分で始末する)のために必要な設備だといひたいのである。しかし、若し、斯うした設備がなく、舊來の共同使用を行つてゐる幼稚園では、その訓練もおのづから、共同使用の訓練になる譯であるが、さあ、それが第一週から始めらるべきだらうか。序ながら問題としてだけ提出して置く。

此の項の中にある「遊戲、お歸りの前に用便する」いふのは、一寸、他の訓練事項と趣きが違つてゐる。外部的な行動の訓練でないし、習慣づけることよりも無理だとも考へる人もあるかも知れない。しかし、斯ういふ生理的習慣は極く大切なことで、又、實行上、比較的容易に習慣づけ得るものである、こゝによつたら、衝動や、外部興味によつて動かされ、促がされるこゝの多い行動よりも、純内部の生理活動の方が、習慣のつき易い規則性を具へてゐるであらう。食事や睡眠の時間的習慣、たゞ即ちそれである。排泄の方も時間的に習慣づけられる。アメリカの幼稚園など、「トイレット タイム」(お小用時間)が定めてあつたりするのを見ても、その實行の能性が明かである。わが國で

は、どうも此點が少々ふしだらの様でもあり、先生の方のこまかい注意も缺けてゐたりする。おそゝうは新入園児につきものとされてゐるが、それを正しい習慣へつれて行つてやることが先生の注意で出来ることで、おそゝうの大部 分は、先生のおそゝうに基くこといつても、過言このみはいはれまい。自由遊戯に己れを忘れ、況んや捨て水なんか忘れてゐる子を、そのまま非常呼び集で遊戯室へ入れてちつと整列させて置く。スキップのはづみに清水が溢れこぼれ流れる。一體、先生はついてゐるのかといひたい位だ。と言つたら、保姆は、おいつこの番人ではないよと仰せられるかも知れない。勿論、そんなおもしもの事までお心を煩はさせ申しては、教育者たる先生に對しまして申譯ない次第でも御座りますが、可愛そなのは、その子。ぬれぎぬならぬぬぬぎぬで泣いてゐる。さつき、一寸注意して下さつたら、その可愛らしい目で先生を見てゐる譯ではないが。……兎に角、實行は何んでもない容易いこゝ、遊戯、お歸りの前などに、たまつてゐるもの、始末さへつける機會を、先生の保育案の中へ入れて置けば、それでいいのである。假りにも、

先生のそゝうから、或る幼兒に、おそゝうの良習慣なんかつけてはならない。

第二週

「廊下を走らぬ」と。「窓に登らぬ」と。これは幼兒の潑瀉たる運動慾に對し、「らく書きせぬ」とは、横溢する

幼兒の表現慾に對し、「立ちも少々氣の毒な抑、い訓練である。しかし、それだけに、早くから、幼稚園生活に必然必具の行儀として、習慣づけてやる必要がある。元氣とやんちや、活潑と粗暴とはおのづから別であり、廊下の作法、窓の行儀が一方にあつてこそ、一ぱいに馳けていい庭、いくらでも登つていゝわくのぼりの設備が活きて来るし、らく書、嚴禁の一方に室内の大ボールド、室外の立てボールド等の存在價値があらはれて来る。一體、わが國では廊下といふものに對する作法がまだ行き渡つてゐない。室内か室外か、様側とも違ふし、往來とも違ふ。その廊下の作法は特に注意する必要があらう。

此の週からお辦當が始まる。此の時期は幼稚園によつて一定してはゐないであらうが、兎に角、お辦當は幼兒の大喜びであり、大愉快であり、出來ることなら早く始めてよからう。殊に通園區域の廣い大都市では、お歸りの關係上、さうしてもそつなるのである。

さて、食事であるが、これには多くの訓練が最必要であり、又その最もよい機會である。一體、われわれは訓練のための訓練を、その道德的意味に於てのみ考へてゐない。そこまでも實際生活の意義で考へる。その意味で、ただ作法の稽古をするといふ風のことばは、生活が形式化し、生活の眞味がぬけて、甚だ面白くない。そこへ食事である。これは、假りに、どんなに形式化しても、抽象形式に墮しないだけの生活實質味が、食慾といふ強い本能と、味覺といふ生々しい感覺性とを以て充されてゐる。から茶碗や皿を前に於て所謂禮法のまゝごと練習をするのは全く異つてゐる。生活訓練として、斯くも生活性を失はないものは他にないといつてもよい程である。

それに、食事そのものゝ衛生的意義に於て、その點から

第三週

よき習慣の必要なところもふまでもない。手を洗ふこと、よく噛むこと、茶をいつしよに口に入れぬこと等、その他

大切なことは澤山ある。食後のうがひ。歯ブラシを使ふこ

とをいはせたりすることになる。注意すべきでもあらう。

第四週

「水栓開閉の始末」は、先づ第一に、水道の場合、子供もに、手を洗ふ前後の習慣である。多くの場合水栓のあけつぱなしに行はれる。それを一々氣にしたらうるさいこのやうだが、手を洗つたら手を拭くやうに、流れる水を止めのも習慣である。一々考へて、水道のメーターを考へたり、水道の公徳を思つたりしてするのではない。そうするこおつくうである。それは頭のことで、こゝにつけたいのは手の習慣である。次に、手を洗ふ時ばかりではない。季節も大分ぼかくして來てのぎがかわく。自分で水栓をまわして水を呑むことも多くならう。その水呑栓はぎんなのもいつしよにして貰ひたい。しかしまだ考へてみると、斯ういふことは、幼稚園のやうな集合行動でこそ比較的出来易いことで、家庭では却つてむづかしく、實行されてゐるところも多からうから、子供には家庭でのことを餘り厳しく聞かない方がいいかも知れない。そうしないと却つ

て、水栓開閉の始末」は、先づ第一に、水道の場合、子供もに、手を洗ふ前後の習慣である。多くの場合水栓のあけつぱなしに行はれる。それを一々氣にしたらうるさいこのやうだが、手を洗つたら手を拭くやうに、流れる水を止めのも習慣である。一々考へて、水道のメーターを考へたり、水道の公徳を思つたりしてするのではない。そうするこおつくうである。それは頭のことで、こゝにつけたいのは手の習慣である。次に、手を洗ふ時ばかりではない。季節も大分ぼかくして來てのぎがかわく。自分で水栓をまわして水を呑むことも多くならう。その水呑栓はぎんなのがいいか、それは設備上大切のことで、呑み口の清潔からいつて、所謂ウォータードリンクを用ふるのが一番いゝが、それは家庭には多分あるまい。そこで、手洗ひの水道栓の場合よりもよく習慣づける必要がある。

あゝ、斯う書いて來るだけでも、訓練々々、また訓練。する方でも氣が疲れるし、される方では尙ほ更うんざりのこに聞へる。しかし、訓練よりも大事なこは、幼児の生活の活きく行はれてゆくこである。訓練、殊に大人の小やかましい訓練癖で、子ごもの生活の勢をそい

で仕舞つてはならない。「いつもなく、いつのまにか、それでゐて、いつも、「たえず」、これが訓練の秘訣であらう。況んや、口やかましくするばかりが先生の能ではない。この極意には、皆さんのが充分訓練されてからつしやるでせう。

誘導保育案

小石川區から三人、世田谷區から一人、本郷區から一人と云ふ工合に、丸で知らない同志が、お馴染の無い幼稚園に、初めて見る先生の組になると言つた様の、特殊な制度のこゝの幼稚園では、子供と先生、子供と幼稚園、更には子供相互が親しみ馴れ合ふまでには、かなりの日数がかかる。

誘導保育案を實施するには、個人指導、分團指導と言つた分子が多分にあるので、ポンと立ちん坊をしてる人が所にあつたり、自己統制の無い時代の馴れ合ひの常として、直ぐに引っ搔き合ひが起つて来る云ふ状態だつたり、又切紙、自由畫等の簡単な保育項目をさせて置くにしても、そ

れが各々自分で出し入れが出来ない様な状態では、なかなかこの案を實施出来る云ふところまでは行かない。

それが暫くの間でも砂場、積木等にて穏かに遊ぶ様になり、又馴れ易い女兒等手を取り合つて遊べる様になり、又自由畫等をするために、大人の手傳無しに帳面やクレヨンの出し入れが出来る様になるまでには、少くも二ヶ月位はかかると思ふ。こんな事情が、「系統的保育案の實際」の年少組第一學期初めに、誘導保育案の立案せられない理由なのである。

兎も角も、入園第一學期は、やがて來る構成への準備をし

て材料征服時代を見ていい。各種材料、例へば模造紙、クレヨン、粘土、チヨーク、その他の何でもをふんだんにいじらせるがいゝ。たゞいじらせると言ふ事だけを目的としていると思ふ。その中には、たゞそれだけでは飽き足りない云ふ子供も出来て来るかも知れない。そしたら、それは個人としてのままなりへ指導して行くとか、又大勢で一つ

の大きな場面として、紙なり、ボールドなりへまさめて見るとか、そんな好い機會がちよいゝ出て来るに違ひない。こんな機会は逃さずにつけて、極く初步の協同への導き入れをする事を心の中に期するがいゝと思ふ。あの年少組、初めの誘導保育案欄の空欄には、こんな心持が含まれて居る。

唱歌遊戯

第一週

遊戲 四回

一回目

案内(最初の導き)

初めの頃は、一人の先生だけでピアノを弾いたり、指導もしたりと云ふ様な事は出来ないから、ピアノの方は年長組の先生にお願ひして、又年長組の子供と一緒にしてもらふ様に打合せて置く。

遊戸室から年長組のピアノの音が聞えて來た折を見計らつて、遊戸室に行く。その時には、小さい子供にでもすぐ出来る様なやさしいものを選んでしてもらふ。

き止んで珍らしさうに眺めてゐる。

二回目

蝶々

曲(進行曲粹No.37)

この動作が始まった時、決して無理には強ひないで。 続ける。

お姉さんやお兄さん達と一緒に見て見ないか誘つて

見て、したい云ふ子だけ仲間に入れてもらふ。

三回目

自分たちだけで保育室でする。

動作

皆踊んで手で花の形を作り、一人一人が蝶々になつて自由に花の間をこび廻る。蝶々が花にこまるごと、こまれた花が代つて蝶々になる。初めの間は恥しさうにしてゐるが、さあ先生と一緒に蝶々になりませう云つて手を連いで蝶々の動作をすれば、大抵出来る様になる。

行進
蝶々が済むごと、其の儘大きい組の子供たちと一緒に歩いて元の席に歸る。

其の後で、今まで仲間に入らなかつた子供も全部一人づつ一列にならべて、(年長組の女兒に間に入つてもらつて)マーチに合せて歩いて見る。先生が先頭にたつて、少しうつくり加減に、手を打つたり、腕を横に伸ばして上下に振つたりして、調子を取りながら行進を

四回目

圓形を作る。

行進しながら圓形を作ること。ピアノの合圖で中心を向き指手を連ぎ、又合圖によつて手を離すこと。これはなかなかうまく出来ない。一二三度練習して見る。

子供も大分慣れて來たので、この回は大きい組の子供

椅子に腰を掛け先生の廻りに集つたまゝのつくり「ムスンデヒライテ……」を歌ひながら、一緒に動作をする。「……ソノテヲドコ?ニ」の所を色々面白く考へてするごと、興味のある遊びになる。

すつかり覚えてしまつてから、今度は椅子をのけて、子供たちを圓形に並べてする。リーダーが中央に出て、(初めは先生)皆はその云ふ通りにする。だん／＼に出来る子供を代てる。

の助けを借りないで、年少組二組だけが合同して、一組

して見る。

づつ指導する。

結んで開いてミ蝶々をして部屋に歸る。

遊戲

ひよこ(記事参照)

唱歌
樂器は殆んど使用せず。オルガンの前に集めて、(椅子に腰掛け)一人宛にその子供の知つてゐる歌を尋ね、一人で歌へる者には歌はせたり、又子供と一緒に歌つたりする。

これは自由な氣持ちで取扱ひたい。ひよこの表現は子供の自由にまかせる。但しこれは少し慣れて來るご、子供自身色々に表現するけれど、まだ入園したての子供は積極的には出來ないので、先生がする通りにする。
かいぐり(土川氏振付、律動遊戲参照)

雀の子(記事参照)

第二週

唱歌

ひよこ(福井直秋曲)

雀の子

テフテフ(エホンシャウカ)

まだ樂器には慣れてゐないから、樂器を主にしないで、子供と一緒に手をたゝいて拍子を取りながら、先生が歌つて聞かせ、幾度も一緒に歌はせる。よく歌へる

殆んどみんなが知つてゐるが、實際にはいゝ加減な聞き覚えのものが多いから、正しく先生が歌つて聞かせる。

天長節の歌及び校歌

年少組の子供は天長節の式には列しないから、天長節の話をしたあとで、先生が歌つて聞かせる。

鳩ボッボ(幼稚園唱歌)

みんなの知つてゐる歌である。然し殆んど全部が、歌詞の一節を間違へて覚えてゐる。

ハトボッボ ハトボッボ

ボッボ ボッボト ト[○]ンデ[○]コイ[…]

が正しいのであるが、

ボッボ ボッボト ××××××

三歌ふので注意を要す。

桃太郎(幼稚園唱歌)

歌ひながら動作をする。

遊戯

鳩ボッボ(記事参照)

桃太郎

スキップ

年長組の子供たちは、遊戯の終りに必ず一人づゝ、又

は一人三人で手を組んで、スキップをして遊戯室を一廻りするのを楽しみにしてゐる。年少組の子供には二三回それを見せて置いた後、先生又は年長組の子供が

手を連いで一人づゝスキップをさせて見る。中にはち

やんこ出来る子供があるが、大抵はまだ出来ない、ただ駆け出るもの、ギャロップ式のもの等色々ある。そんな事にはかまはないでするまゝにさせて置く。

第四週

唱歌

コヒノボリ

これはハ調で歌ふよりニ調に上げて歌つた方が、鯉のぼりの氣分が出る。

遊戯

コヒノボリ(記事参照)

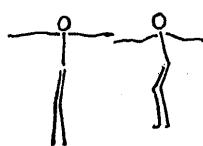
スキップ

個人々々に適當に指導する。

イコデント

トポッポ ポッポ

ポッポトハ ポッポトハ



一方の手にて招く様子
をする

トンデコイ

手は左右にのばし上下

にふり羽の如くし、そ
れに合はせて兩膝を曲
げたりのばしたりする

ボッボボッボト

拍手六回

ハトボッボハトボッボ

を向く

準備 圓形を作り内方

鳩ぱっほ

鳩 ぱっほ

ハトボッボ ハトボッボ ボッボボッボト トンデコイ

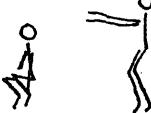
オテラノ マネカラ オリテコイ マメラマルカラ ミナタベヨ

タベアモスグニ カヘラズニ ボッボボッボト ナイテアソベ

ヨベタナミラカルヤラメマ
ニスラヘカニグスマテベタ



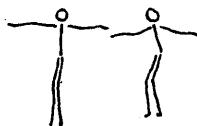
イ コテリオ



ラカネヤノラテオ



ベソアテイナトポッポ ポッポ



オテラノヤネカラ

両手を上にあげ、屋根の如き形を作る、體はのばす

オリテコイ

む

マメラヤルカラミナタベヨ タベテモスグニカヘラズニ

しやがむだまゝにて、一方の手に豆を入れ一方の手でこれをまく。

(この時、一三人は鳩トリこなつて圓の中に入り、両手にて嘴を作り豆をたべて歩く様子をする)

ボッボボッボトナイテアソベ

立つて、手は左右にのばし羽の如く上下にふり、手に合はせて、両膝も曲げたりのばしたりする

雀の子

Handwritten musical score for "雀の子" (Sparrow's Child) featuring four staves of music with lyrics written below each staff.

The score consists of four systems of music:

- System 1:** Treble clef, common time. Lyrics: シューチュク シューチュク スズメノコ
- System 2:** Treble clef, common time. Lyrics: ヴマレタ トキハ マルハダガ
- System 3:** Treble clef, common time. Lyrics: しつほか はえて はねがで かて
- System 4:** Treble clef, common time. Lyrics: ミミモ キコエズ メモミエス
- System 5:** Treble clef, common time. Lyrics: みみも きこえて めもみえ て
- System 6:** Treble clef, common time. Lyrics: アタマの フリフリ チューチュク チュー
- System 7:** Treble clef, common time. Lyrics: うらの おやまで ちゆーじゆー

雀の子

準備 圓形を作り内方を向く

一、チュウチュクチュウチュクスズメノコ、ウマレタトキハマルハダカ
手は胸のところにくみ、しゃがむでるる



コノメズズクニラヌクナクチ
カダハルマハキトタレマウ

ミミモキコエズ

しゃがむだまゝにて、掌で耳をおほふ

メモミエズ

掌で目をおほふ

アタマフリフリチュウチュクチュウ

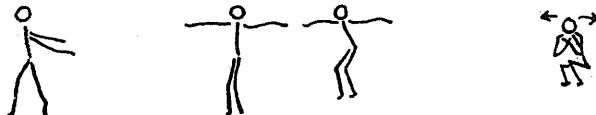
手を胸にくみ最初三同じ形のまゝ頭を左右にふる(左右各二回)

二、チュウチュクチュウチュクスズメノコ

しゃがむでるたのを次第に腰をのばしてゆく、手は左右にひろげて上下に羽の如く動が
しつゝ立つ(四回目に全く立つ様になる)



テエハガボッシ コリズスクチラチクチウチ ラクチラタリフリフマタア



シッポガハエテ

片足を一步後にひき、両手を後にのばす

ハネガデテ

足ぶみ三回、手は左右にのばし羽の如く上下にふる

ミニモキコエテ

立つたまゝにて、掌をひろげ耳のうしろにおく

メモミエテ

指でメガネを作り目のこゝろにあてる

ウラノオヤマデ

手は羽の如く動かし乍ら、自分のまはりを一周する

チュウチュクチュウ

手は羽の如く上下にぶり乍ら、足は両膝をそろへて曲げたりのばしたりする

コヒノボリ

ヤネヨリ タカイ コヒノボーリ オホキイ
マゴヒハ オトウサマ チヒサイヒゴヒハ
コドモターナ オモシロサウニ オヨイデル

準備 圓形を作り内方を向き、圓の中心

に鯉のぼりを立てるこみにする

ヤネヨリタカイコヒノボリ

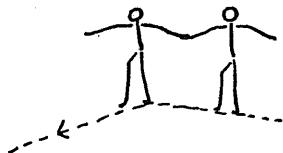
圓の中心に向ひ鯉をあげる動作をする、片足を前に出し、両手で綱をひき、顔は上を向け體全體拍子を三つて動かす

オホキイマゴヒハオトウサマ

手をつなぎ圓周にそつて歩く、圓の中
心の鯉の方に顔を向けて

コヒノボリ 小倉ハルショウ 振
エホンショウウカ

マサウトオハヒゴマイキホオ



リボリヒコイカタリヨネヤ



チヒサイヒゴビハ

圓の中心を向き、互に兩さなりの人の肩に手をのせる様にし乍ら、圓心に向つて進む

コドモダチ

止つて左右に交互に顔をむけ互に兩さなりの人ご顔を見合はせる(四回)

オモシロサウニオヨイデル

右足一步後にひき、左斜上を見同時に拍手三回

次に左足を一步後にひき、右斜上を見同時に拍手三回

以上二つの動作をもう一度つくりかへす

ウチクチウチ
デマヤオノラウ
テエコキモミミ
テデカネハ



準備 ひよこ

福井直秋曲
戸倉ハル振

圆形を作り、内方を向き、手をつないで圆の内を籠の中にす
る、圆の内に數人がひよこになつて入る、ひよこは各自自由にひよこの表現をする、そして適宜周囲の者に交代する(各
者が自分で指名して交代する)

I. ヒヨヒヨヒヨコ

手をつないだまゝ前後にふる

カハイイヒヨコ

手をはなし拍手六回

II. ヒヨヒヨヒヨコ

手をつないだまゝ前後にふる

ナイテハアソブ

手をはなし拍手六回

III. ヒヨヒヨヒヨコ

手をつないだまゝ前後にふる

カハイイヒヨコ

手をはなし拍手六回

(以上は何回もくりかへし行ふ)

ひよこ

六三

ヒ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ ヨ
ヒ ピ ヒ ピ ヒ ピ ヒ
コ ミ コ カ ニ カ ハ
ヒ あ ヒ フ ブ ハ フ

談
話

第一週

一つの談話材料をまごまつた形で話しすることは、どうしても入園最初の日から二三日を経てからでない。始められない。この二三日、紙風船で遊ぶ。コマ（年長組から貰つた紙の）を廻す。が、遊戯を見せて貰ふ。繪本を見る。等の、是等の間で、保母はつゝめて個人對の話し合ひの機會をなるべく多く持つ。

斯うしてゐる間に、まづ新入園児一人づゝの姓名をしつかりて覚えこみ、又誰々は附添の手を離れられる、誰は離されられない、といふ事を見きはめておく。名を覚えてしまひ、附添如何が大體わかつてから、第一の話を始める。

ボコボコ

最初に擧げるこの話を、こゝにもつて來たわけは、内容よりも、題名のボコボコといふ名稱である。先生から、「ボコボコ」といふお話を上げませうね」と云はれて、是れをココさちらを先にしてもよい位である。富子さんが叔母さ

聞いた幼兒は、發音からくる彈力性と、可笑しみによって興味をひかれる。この話は是非題名を先に示す。話の終る迄度々繰り返されるこの、ボコボコを軽く面白く發音する。内容から云へば、お母さんの留守の間に、一寸いたづらをするといふ。自分達と同じ年頃の、ともすれば、不可以ない云はれたいたらをしたくなる幼兒にまつて、始めて聞いても、この話の簡単な筋もよくわかるらしい。いたづらをしたから云つても、その報いが、叱られたり、お土産が貰へなかつたりすれば、現實的になり、教訓味が強いけれど、どう考へても、現實には無さそうなボコボコしかし云はれないといふ意想外な報いは、その點があつさりして居ていゝ。

富子さんの風船

この話も入園最初の幼兒に話すよい材料で、前のボコボ

んから風船を頂きましたよと云ひ出せば、最も親しみのある風船といふことにまづ興味をもつ。次に風船を吹く身振

り、保姆は両手を丸く風船の形にして、口の近くにもつてゆき吹いて見せる。段々手の丸さを大きくしてゆく。こゝを幾度も繰返す中に、中には無意識に自分でも吹いてゐる幼児がある。かうなれば樂に話が出来る。

次に風船につられて、富士さんも兄さんも、魚屋さんも、みんな空へ空へと上つてゆく。この引ずられてゆくところを手振りで示す。

この話は言葉だけでは面白く述べない、殆んど身振りの方を多くして現さねばならない。

きいて居ても餘程面白いらしく、この時期には二三度くり返してもよい。

大きな球のはなし

猿、犬、猫その他出てくるもののがかなり多いけれども、一つのことが、繰り返されてるので複雑しない。一つの行動の繰り返しが、この話の新入園期に適してゐる所以である。更に、キャンニャーワンチウコケッコーの啼聲の連

續は、ボコボコと同じく發音からくる面白さに惹かれて喜ばれる。

この頃になれば、大分慣れて來て、附添のついて居るのは段々少なくなる。るても特別な三四人となるであらうが、まだゞそれ自體の目的よりも、互ひに親しみをましてゆく一つの手段として扱はねばならない。形では組全體でも、心の中では一人一人へ話しかけて居る心持ちである。どうかするこ面白い話一つで、思はず附添を離れて、ふらふら先生やお友達の傍へ來てしまふ例も少なくはない。

第二週

小さい小さい叔母さん

小さい小さい叔母さんの次々の動作は、幼児の想像力を十分に働かせる。話をするよりも讀んできかせる方がいい。ごく静かに。話すならば、餘程言葉なり、筋なりをよく見えてしまつてからでないこ、却つて折角のこの話の肝心な心づかひを破ることになる。最後のコトンといふ音は、何の音であらうかと、各自に聞いて見るのもいゝ。發表型の子はもう發言して、自分の考へた何々と答へるであらう。

舌切雀天狗喰ひ

この邊で始めて人形芝居を見る。明日は又附添ミ一日中離れられないやうな子でも、この一時、さみしさも、頼りなさも忘れてしまつて、自分一人になつて見物する。そこのを覗ミるのであつて、十分堪能させるには、年長組一組ミ、年少組一組位の少人数が、一室で静かに見る程度。

第三週

猫のお見舞

病氣になつた猫を、大きい犬ミ小さい犬ミが見舞に行く
といふ、まことに心やさしい話である。大きい犬の動作の
すべてが大きく、小さい犬はすべて小さな動作で、聞いて
る幼兒にはつきり會得出来る程の大小の差をつけるのが

観察

第一週

幼稚園内各室、幼稚園の庭、これ等はこの時のこの子供

いゝ。
天長節

前日に、明日は天長節であることを知らせる。何の日で休むかを知らせ、まだ委しい説明はしない。聞かせるばかりではなく、「天長節」、「靖國神社のお祭り」各自に發音させる。

第四週

牝鷄ミ猫

牝鷄がわがひよこを強く愛する方を主ミし、特に猫を惡者あつかひせぬやうに。但し猫が蛇の卵でびっくりする驚きをうまくあらはしたい。

達が家庭以外に始めて生活する場所なのである。生活訓練の方で皆説かれてゐる事である故觀察ミして改めて言ふ迄

もないと思ふ。生活する場所を知るのであるが、知ると言ふのも、見て廻る、生活の順序として見て廻ると言ふ方がいいかも知れない。子供にはざんに何もかもが新しく大きく、多くであらう。而し、兎に角子供達に新しい樂しくなるべき生活の場所を見て廻らう。靴箱はあけて見やう。帽子掛も帽子をさつたりかけたりして見やう。がまづ自分達の組のお室を知らう。そうしたら遊戯室に行き、大きい組のお友達の遊戯をみせてもらはう。それより前に、手洗所に連れて行つて見やう。始は園内はこの位にして庭に出る。まづ一廻りゆづくり歩く。ぶらんこが空いてる、すべり臺がよく滑りさうだ、はしごの様な、公園にあつたつけ、ジャングルジウム。さあみんな好きなもので遊びなさい。

花壇の花、お山の木、(大銀杏は何よりも早くみつけたが)は明日又みんなで見る事にしやう。大きい組のお室も、先生方のお室も、附添の待つてゐる室も(これはこより判つてゐるかも知れないが)小使さんの室も、又明日みやう。

第二週

幼稚園の近處

幼稚園といふ場所に少し慣れ、獨りで必要な場所がわかる様になるのはさうしても四五日はかかる。そうした頃幼稚園の近所を改めて眺める。建物、木等、我々の幼稚園舎を客観的に眺めるのである。お隣近所に何があるかを知るのである。

つくしんぼ

「つくしんぼ」と言ひ慣れてゐるあれは御承知の通り木賊料植物「すぎな」の實葉、胞子莢である。

春のいぶきを割合に早く受けて土の下からむづくり起き出す様な、「つくしんぼ」は名から言つても、形から言つても童話のものである。

「つくしんぼ」の出さうな土地といふと大體わかる。土手である。あんまり肥沃そうでもないみぎり色のまばらな土手である。榮養莢である「すぎな」があれば大てい春早くなら胞子莢の「つくし」もあるわけである。麗らかな日にこぎ一緒にさがしつゝ、つみつこをし度い。始めは一つ二つとも三數へてゐたのに手にも抜けつゝにも一ぱいになつてしまつて、小さいハンカチのふちからもニヨキ／＼出る程につ

み度い。つむ時はつむ事に一ぱいである。それを持つてお部屋へ歸つてから、又はその歸り道でが觀察の時である。若しこも一緒につむ機會も場所もないにしても春の中一度はつくしんぼを持つて幼稚園に行き度い、月曜日の朝でも日曜日のこみを持つくしんぼを中心には話し合ひ度い。

六角形の胞子嚢を持つた子嚢穂俗にハカマといふさや（これは葉の變形である）を持つた漿質の莖を注意する。ふるつて紙に受ける落ちは胞子であるがこれを特に説明してきかせる必要もない。若しこれはなし」ときく子

さもがあればつくしんぼのお母さんはすぎなで、花が咲かない、つくしんぼはお花のかはりで、この粉は種子のかはりであることは話してやる。けれどつくしんぼで觀察させ度い所はある形色香である。若いもの、のびたもの、開いたものの變化の愛らしさである。そして話し合つた後、つくしんぼに因んだ童話をするも面白いし自由画もしてもかゝせ度いものである。

たねまき
たねまき

春のたねまきは彼岸前後といふ。がいざも達が少しありであることは話してやる。けれどつくしんぼで觀察させ度い所はある形色香である。若いもの、のびたもの、開いたものの變化の愛らしさである。そして話し合つた後、つくしんぼに因んだ童話をするも面白いし自由画もしろくばかりに用意して置く。

時々種の種類は何でもよいわけであるが、子供に成長のわかり易いもの、花の親しみ易いもの、名の覚え易いもの、

勿論毒でないもの（花も、葉も、茎も、實も）を條件とする。

朝顔、松葉牡丹、サルビヤ、コスモス等が無難である。豆も面白くよい。菜の花（小松菜でもよい）もきれいでいいものである。四種も五種も一度に蒔かずして一種かせいぜい三種位が適當で、蒔く前にまづ種子として觀察させる。形、色等。そして銘々の幼児にその各々を蒔かせる。蒔き方はあらかじめ種子の種類に應じて土のかけ工合を話す。そして蒔いたら名ふだを立てる。

蒔いてからは時々水をやりに子供達と一緒に蒔いた所を訪ねる。自分達の蒔いた種子が芽を出し日毎に伸びるうれしさを子供達と共に味ふのである。

第四週

チユーリップ

春の花の中、子供の印象に最も鮮やかにうつるらしい花である。和名は「うつこんこう（鬱金香）」百合科の小アジア原産の植物である。球根植物で六枚の花被をもち地下莖は

圓錐状の鱗莖である。前秋に鉢植ゑして置くこの頃その苦心の花が開くわけである。散り易い花であるが長くもた

せる爲には成るべく日陰に置くことである。晴天の時に開く花であるから。赤、黄、しづく等の花もぼっくりとこどもの感覺に恰らマツチするものがある様に思はれる。

それなく保育室の花瓶に生けて置く、又鉢を置いて置く、「おはよう」に入つて來ることの注意を引く花である。まづ子供達と一緒に觀賞しやう。花被の色、形、香、數、葉の形を注意する。そつしたら自由畫に、塗畫に、鉄仕事に引入れる。前以てそのつもりで投入されたチユーリップであり、色模造紙も糊も、色鉛筆もクレヨンもその爲に用意してあるのだけれど、それなく。

武者人形

遊戯室に飾られた幼稚園のみんなの武者人形をみんなと一緒にみにゆく。家にあるものと同じのがあつたり、珍らしいものがあつたり、附添はなれない子供には全くよい引はなし策のやうなものであらう、話し合はない子供さも話し合ふ機會が得られる。

手 技

第一週

自由畫 二回

畫のかきたきのものは黒板に自由畫をかゝせたり、自由畫帖にかゝせたりする。この時、自由畫帖には一枚二枚位に制限してかゝせて、亂雜に自由畫帖を使用しない事をはじめからのきまりにする。

書いたる自由畫につき幼児にその説明をきゝて、その畫の横に説明三月日を記入しておく事にする。

鉄仕事 一回

色模造の小さきものを二三枚(お木皿なご)に入れて、幼

児に自由に切らせる、時三しては何がまざりたるものをおくるものあればこれをきり紙帖なごに糊ではりつけて自由畫同様に説明三月日を記入しておく

粘土 自在 一回

全く幼児の自由につくらせる。

第二週

自由畫 一回

第一週に同じ

鉄仕事、汽車 一回

上圖の如く四五種の色模造紙にて機關車、客車、なごの出來上りたるものを見せて、幼児に自由につくらせる。汽車の煙、車なご黒のクレヨンでかゝせる。

粘土 おだんご 一回

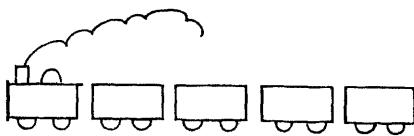
一〇センチ位のヒゴ三本位用意する粘土を丸めて一つのヒゴに三個位さすこれを三本つくらせる。

スリエ ヒヨコ

メリエには事情のゆるす限り色鉛筆を使用する事とする。各幼児の一人宛にこゝのへる事の出来ない時は組なり園なりで備へておいて、各幼児

交代にて使用する。ヒヨコを黄色に

ぬりたるものを見せてぬらせる。メリエにもぬりたる月日を記入しておく事にする。

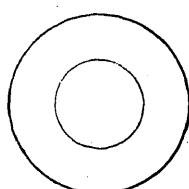


粘土 自在 一回

製作 こま 一回

畫用紙に直徑六センチ位の圓を書き、その中に更に直徑三センチの小圓を作つて二色にスリ分けてその圓のまわりを切りぬかせる。一人の幼児に二つ位作くら

せる。



五センチ位にヒゴを一本用意して畫用紙の中心に穴を開け

て下へ一センチ半出して上下をマメゴムを半分に割つてつけてヒゴを動かないやうにす

る。この時マメゴムの代りに梧桐の實を用へば趣もあり經濟もある。コマの軸の下の端は斜に切つてコマが廻りやすくなる。この時マメゴムの代りに梧桐の實を用へば趣もあり經濟もある。コマの軸の下の端は斜に切つてコマが廻りやすくなる。

第三週

自由畫 ゴム風船 一回

保育室に色の異つたゴム風船を飾つておく、幼児がこれを見察して、自由に畫かしめる。

鉢仕事 ゴム風船 一回

前に自由畫でゴム風船を書いたものを鉢仕事として色模造紙二三種にて幼児の觀たるゴム風船を切らせ

メリエ 一回

切り紙としてこの汽車は前にもあつたので幼児に機関車は機関車らしく、客車は一色づゝかへてねる事だけ約束してねらせる。

自由畫 鯉のぼり 一回

幼稚園の庭に立てられた鯉のぼりを觀察して書く、椅子を庭にもち出して寫生らしくするのもよい。

製作 鯉のぼり 一回

赤、黄の模造紙の半紙半分大に二つの鯉が書がけるだけの大きさに一ぱいに鯉の形を臍寫して(裏表に出来るやうに考へてかく)眼、鱗は幼児にかゝせる。これを周

園を切りぬいて一枚のまわりだけ糊ではり合せ口はあけておく。

模造紙五色を細長く切つて吹流をつくる鯉赤、黄二匹を吹流に糸をつけて麦わらを通したヒゴに結びつける。このヒゴの頭に小さい風車をつけてもよい。これをたてるこきにはヒゴの下に粘土をつける。

粘土 柏餅 一回

保育室に飾られた五月人形にお供へする柏餅をつくる。皮を平につくりその中にまるめたあんを入れて二につ折つて柏の葉なご庭より摘んで包む。

年長組第一保育期

——満五歳、満六歳——

生活訓練

第一週

今までの年長組が小学校へ進んで、今度から幼稚園の上級生(一)になつたといふ所感は、幼児ながらに相當複雑なものであらう。その感じの中でも、得意、誇りを主とするは勿論であるが、そこそこなき自重感もいつた風のものも、起らざるを得まい。そこを、巧みに訓練化してゆくことである。それは、つまり、自分のこころは自分であるといふ方へと、他のために盡すといふ方へと、殊に、園の全體へといふ方へ、この三つの方へ、責任的気持ちを一步進めるこそに他ならぬ。但し、それは方向を示すもので、すぐ、そういう実現へ急ぐのではない。

「年少組に對する心持」といふことは、年長組になつてか

ら始めて問題になつて来る。それに就て、小さいものをいぢめるなさいといった風のこころも、或る種の幼稚園では必要かも知れないが、一般としては、そんな必要もないであらう。さいつて、小さい人を助けよも、少々買ひ上げた言ひ方であります。何もそう大げさないひ方をしないでも、生活の實際の裡で、小さいものを迎へてやつたり、先きに立てゝやつたり、そういう風の仕向け方でいいであらう。つまり、その内容は大したこことなく、気持ちとして、年少者への正しい方向をつけてやりたいのである。

年少組の、しかもその第二週から注意したことだが、またこゝで再注意されてゐるのは、年齢が愈々元氣になつて來ること、年長組になつた勢に對する警戒である。

第一週

食事に關しての訓練は年少組の第三週から始まつてゐる。こゝでは、それ以上、食事前後に先生のお手傳ひをさせるのである。これは、任務といふよりも、面白がつてするこゝであるが、それを仕向けずに置くと、不精ものになり、自分ひとり主義者になり、折角の奉仕訓練の機会を失するであらう。たゞ、幼兒の中には、殊に女の子の中に、おせつかいの、おしゃまさんがあるので、何んでも手柄頬に、自分ひとりでお手傳ひに手を出したがつたりする。そういうふのに消極的訓練も亦、注意を要する場合がある。

歸りの時の整容は、實際は、先生がよく世話ををしてやることになるが、それでも、服装の亂れたまゝ、手や顔のよござれたまゝでは心もちの悪いといふ習慣は、幼兒の方のものである。このために、相當時間をこらしになるかも知れない。それでも決して惜しくはない。ゆつくり落ちついでするがよい。こゝのは、單に整容の結果ばかりでなく、心もちの落ちつかせに最も有效だからである。幼稚園の生活は幼兒の元氣を中心とするが、その中に、静かな落ちつ

きも無ければならない。一體に我國の幼稚園の男の子には、それが足りないと思はれるが、注意のいるこゝである。しかしまた、落ちつきこいつて、落ちつきのための落ちつきの稽古をさせるのも考へるものである。幼兒に靜座法でもあるまい。それよりは、斯うしたお歸り前の整容で、静かに服にブラツシをかけ、髪を櫛けづり、手や顔を洗ひ、こいつた時間をもたせるこゝは、至極く自然の落ちつき訓練となるのである。しかるに、今日の幼稚園一般として、これが甚だ缺けてはゐまい。

第三週

こゝで擧げてあるこゝも、つまりは、年長組になつた元氣の始末であるが、訓練としては、庭なり道路なりで、踏んでいゝこゝろこゝ踏んで悪いこゝろこゝの區別を立てさせるこゝである。昔は聲のへりを踏むこゝを甚しい不作法とした。今は、横断道路外で街路を横切るのは交通作法に反する。之れ皆、野性生活でない行動の訓練である。折角、青青生へる芝生の上なきを平氣で踏まないようこゝいふのも、その一訓練としてあるが、又一方には、幼稚園こし

て、芝の保存といふ極く實際の問題もはいつてゐる。

第四週

前週では砂場の後かたづけ、今週では室内の整頓と、共に、ちらかしをきらふ習慣に向つてゐるのである。勿論、之れを餘りやかましくして、きれい好きの御隠居さんのやうにして仕舞つてもなるまいが、年長組にもなれば、相當のところまで此の訓練をしてよからうし、必要でもあらう。それは、亂雑は外物ではなくて、性格に及ぼすからである。心もちの片づいてゐるものは、身邊もおのづから整ふ。その反対に、心もちの散らばつてゐるものは、身邊もだらしない。その逆が訓練效果として考へられるのである。

ところで、整頓といふやうの訓練になるご、先生が先づ、その訓練をされてゐることが先決問題である。出しつばな

し、置きっぱなし、こちやく、くしやくで平氣であられる先生は、豪傑であるのかも知れないし、そこに、一種の面白い教育效果もあり得るかも知れないが、整頓の習慣の訓練者としては不向きである。但し、砂場は勿論保育室は飾り場でもなし、お座敷きでもない。仕事場であり、細工場であることが多い。そろそろ片づけてばかりゐたら何も出来ないといふでもあらう。ところで、畫家のアテリー、大工さんの仕事場、大に動いて居り、相當物が出してあつて、そこなく整つてゐる。一寸した物の置き方に、不秩序と秩序とがあり、亂雑と不亂雑がある。そここそ、先生の心のこまかいはたらきから、自然に分れて來る區別である。そして又、幼兒達に及ぼして來る自然の影響感化でもある。

誘導保育案

第一週

おもちや作り

年長組になつたご云ふ事は、子供達にまつてどんなに嬉しい事であり、自重させる事であらうか。私共大人には想

像も出来ない程である。いくら手を盡しても附添を離さなかつた人が、こちらが驚く程、思ひ切りよく附添を歸したり、無口であまり人を話さない人が、別人が思ふ程によく話し合ふ様になつたり、過ぐる一年間、みんな一緒に

一度だつて遊戯等した事の無かつた人が、昨日までの事は打ち忘れたかの様に平氣で中には入つてしまつするのも、よくこの時期にある事である。

私共は、あらゆる方法をもつてもこちらの思ふ様になつてくれない時には、この組の變る時期を利用しようとして、一時手を引くことがよくある。

武骨一點張りのますら武夫でも、小さい組の人達が、先生に、親に、手を引かれて側でも通らうものなら、むづがゆい様な嬉しい様な表情が眉宇の間に漲ざる。お世話好きの女の兒等、じつとして居られず、二三の同志と手を携へては小さい組の人達と遊んで上げに出掛けてゆく。兎に角、男兒も女兒も新來者を迎へた悦び、新來者をいたはりだから保母が「小さい組の方々に、風車、こま等いろんなお

もちやを掠へて上げませうね」とでも言はうものなら、みんなの心は待つて居ましたと云はんばかりに飛びついて来る。かやうに、この主題はいゝ容易に子供等の心に動機づけられる。

これの期待效果は、年少者を迎へた悦び、満ち溢れてる年少者へ對しての純真な心が、物に託される形だと言つてもいい。手技としての效果は言はずもがなである。

作り方は手技の項参照。

風車は、小さい組の人達が幼稚園でも遊べる様に、數だけ出来たら直ぐ持つて行つて上げさせる。いかめしい男兒等は、てれて嫌がるかと思へば、意外にもそんな氣配も無く、よろこんで、併し、恥しさうに上げて来る。小さい人達がよろこんで打ち興じる様を見てはこの上もなく嬉しそう。そして自分達もそれで遊び度くなつて、自分達のを掠へには入つて来るといふ有様。お庭中、廊下中、小さい人も大きい人も風車に打ち興する様は、和かな新學期の風景である。他のこま等も子供に持つて行つて上げさせる。

一人の子供が數多く作るので、手のかゝらぬ簡単なもの

がいゝ。單純なだけに飽きも來易いから繼續時間は、まあ一週間位が適當であらう。この後も時々、その日限りのものでよいから、ちよい／＼こういふ事を計畫するがよいと思ふ。

第二週

幼稚園を中心としてその附近の市街製作。

大きい組になつた云ふ緊張の重心の高まつてゐる際であるので、年少組の時と異つて、ぐつゝ大人っぽいものを豫案して見る。

今迄に幾度か遊びに行つて、あの柏根ごしに護國寺一帯を眺めてゐるので、この學校の西の方面の大體の様子は、子供等の心にも刻まれてゐる。北の方は毎日通園の途々あまりにもよく目に触れてゐるし、東の方は途があり、兵器廠跡である事は、春の候につくし摘みに行つて幾度か見て來てゐる事である。そこで、ある日、一枚の大判の模造紙を取り出して机の上に擴げる。まわりの二三の子供は好奇心を持つて寄つて來る。これをきつかけにみんなを自分のまわりに集める。極く大まかに、こゝは幼稚園、こゝ長方形を

描く。こゝは本校、こゝに小學校があつて、こちら側に女學校、こゝの道は毎朝皆さんの通つて來る道、こゝは學校のご門がある。さあ説明しながら長方形やら道の線、ご門等を描く。それから、これ等を含めて學校の構内を區割する。地圖と言ふものは抽象的なものであるから子供等の心にさう映つたかしらさ不安を持ちなながら見渡したが、流石朝夕見馴れてる爲かよく呑み込めるらしい。それで安心して又つゞける。この通りは電車通りでこれの端が省線大塚驛。(省線通園児半數あり)こゝが仲町の交叉點、この電車(交叉線を描きて)では誰さんがいらつしやるのね、さ言つた工合にして大體の觀念を子供等の頭に浮ばせる。學校の周圍を走る電車通りの兩側の街を指して、この邊のお店屋さんをみんなで作りませうね、この邊の家を毎朝通つて来る時よく見ていらつしやい。そして、御自分はさの家を作らうか考へて置いて頂戴ね、これ位にして今日は之で止めておく。これに續けて作り方の相談も出來ない位今迄長い時間つゞけたわけではないけれど、子供にさつては出し抜けの相談なのであるから、そう急がずに、も少しゆき

りを置いて、ゆづくり考へて貰ひ度い心組から。

中、一二日おいてまた適當の時を見計らつてみんなに相談を持ち掛ける。

「こないだご相談したこの邊の町を作ることね、どんな風にして作りませうか?、兩側にあるお店は、皆さんのお家にある、紙の空箱を持つて來ていたとき度いの。それにお窓をつけたり、お店を切つたり、棚をつけたりした方が、しつかり出来ていゝですね。(空箱利用のお店の出來てるのを見せる)。

若し無かつたらボール紙で組み立てゝ上げませう。町の電柱だの、樹だの、電車、自動車、通つてる人等も拵へてそれゝ立てゝほんどの大塚の町の様にしませう。そんなものが通るか、又ざういふお店屋さんがあるか、ざういふ建物があるか毎日見ていらつしやるのですけど、これからは尙よく見て置いて頂戴ね」等と言つて日頃の觀察に一段と念を押して置く。

今週はこれ位にして置いて、子供等の心に動機性や内容を醸させ様とする。

これに依つて考へられる期待效果としては、製作としてついて来る效果は勿論の事、觀察が一層確實にせられる事は言ふまでもない。全體的綜合への個人的分擔の經驗、即ち個人として作った一商店なり一家屋なりが、やがて綜合配置せられた時に、全體としての町の一部をなして居る。つまり、自分も全體の中の一部を確に分擔してゐるのだ云ふ事が、淡いながらも子供等の心の中に映じると思ふ。それから、作られた家々が停留場等が實際に置かれるので、幼稚園附近の地況が今迄よりはずつとはつきり分る、之が三りも直さず郷土教育の最初の階梯だとも言へるであらう。

この案はながく發展して行く。先づ十週位か、もつと長くつゞき得るを見ていく。

第三週

幼稚園を中心としてその附近の市街製作。
商店 作り方は手技の項参照
五月節句

せられて居る場合が尠くない。しかも次いで来る五月節句は、行事も行事、子供を本態としての家庭行事である。之を幼稚園生活へ取り入れないで何をしも取り入れやう。

實際仕事の計畫を、もう今週位から始めねば間に合はない。

幼稚園にても、人形を飾りつけるのみでなく更に製作までさせるので、一層濃く、はつきりしたものに印象づけ得るに

ある。

繼續時間は今週ごと來週ごと凡そ二週間。

第四週

男児の典型とも言へる可愛いゝ金太郎が、足柄山の山奥で、軍配を持つて子供の大好きな熊、お猿、兎等のお相撲を行司して立繪。之を保姆が一つ完全に拵へて見せる。

「これをお節句までに拵へて、お家へ持つて歸つて、皆さんのお人形さんと一緒に飾りませう」と言へば、どんな仕事嫌ひの怠けやさんにも異議のあらう様子は見られない。

この週は金太郎、熊、臺紙等立繪の部分の、色塗り、切抜き、立て方等をする。委しき作り方は、手技の項参照。

これの期待效果は、製作に對して持たれる豫期效果は無論の事、家庭にて行はれる年中行事に對しての興味を、幼

五月節句つゞき

今週は鯉幟の部をする。年長組であるから鯉は各兒原型を描かせる方が各種各様、面白味があつていゝ。幟の尖端に風車をつけ、基は粘土で固めて、畫用紙の臺の上に安定に置ける様にしてやる。

愈々出來上つたらお節句の日に持たせて、家庭の節句人形の一部に加へしめる。

市街製作つゞき

樹木、森林 手技の項参照

唱歌遊戯

第一週

唱歌 二回

花咲爺(童謡唱歌名曲全集)

先きに黒板に歌詞を書いて置く。歌詞が長いので二回に

分けて教へる。

年長組になつてから初めての唱歌なので、歌ふ時の態度

を注意し、姿勢をよくすること、ざなつて歌はない事、

口をよく開けて歌ふ事等注意する。

年少組で習つたものゝおさらひ。

遊戲 二回

新入園児の爲に遊びをして見せたり、又小さい子供たち

の間に入つて世話ををする。

花咲爺(當園振付幼兒の教育三十四卷五號参照)

演出遊び。用意としてこれに必要なお面其の他のものを

作る。

年少組でしたものゝ復習。

第二週

唱歌 二回

先週のおさらひ。

一人づゝ前に出て歌ふ。他人の歌つてゐるのを静かに聞いてゐる様にしたい。

遊び 二回

兵隊あそび(土川氏振付律動遊戯参照)

花咲爺

先週のつづき。

第三週

唱歌 三回

君が代

校歌「みがゝすば」

天長節の式に列席するので、君が代及び校歌は全校生徒

が歌ふ故に、自分だけ勝手に聲を張り上げて大聲に歌は

ぬ様に注意する。

天長節の歌

これは先生が歌つて聞かせる。

遊戲 二回

種まき

自由表現(幼兒の教育三十三卷十一號參照)

唱歌 二回

エンソク(エホンシャウカ ハルノマキ)

少しテンボを早め輕やかに歌ふこと。

遊戲

エンソク(子供の舞踊(一) 參照)

談話

第一週

年長組の談話の配列は、新入園の時のやうに嚴密にする
必要はない。一年を通して見れば、自らそこに選ばれてる

るわけであるが、一つ一つは時に前後しても差支はない。

型をほぐしていくつて、いろいろの場合に幼兒が話し手とな
る機會を少しづゝ作つてゆきたい。

アリバ、

アラビヤンナイト中の四十人の盜賊隊として、かなり傳
へられてゐる話であるから、二三聞いてゐる幼兒もあらう
に養はれてるので、年長組になつたから云つて、更めて注意することも無い。たゞ、いつもくき、手といふ定
が、幼稚園ではアリバ、の考や、して來た事を主とする方

第四週

がい。神祕な洞穴の開閉が最も興味深く、且つ冒險的要素を多分に含んでるので、殊に男兒には面白いらしい。

盜賊を悪者として扱つておく。泥棒といふ言葉は、怖い

といふよりもむしろ祕密の面白い存在として、思ひがけなく自由遊びの時に影響する例もあるので、この言葉は用ひたくない。

釋迦

お釋迦さまの誕生日四月八日に關聯して、こゝに掲げた

のであるが、實際としては小學入學直前に用ひる方がよい。他の多くの談話材料は宗教味を含むものが比較的少ない。いさ思はれるので、この意味でかういふ材料を是非入れて置きたい。

第二週

まちがひ

ばかげた昔話で、材料そのものは特にそこがどうと推賞する價値があるわけではない。然し、幼稚園で用ふるさいふので、兎に角何でもよいといふわけにはゆかず、選びに選んだ結果、かうしたばかげた意味のない話は、追々失は

年長組になれば、保育案に盛られた材料の外に、隨時に

れてゆくやうな氣がする。談話の目的は他の多くの材料で、十分に達せられるから、たまにはこんな話も加へる方がよい。

猿蟹合戦、動物のおさり(人形芝居)

この場合は多く新入園児を迎へて見る時であるから、今迄に養はれて來た見物人としての作法は知つてゐる筈。それを忘れないように。猶年少組の世話をなさせるのもよい。

第三週

天長節のお話

前日に、明四月二十九日は天長節であることを、如何いふ祝日である事、かういふ日には各家で國旗を出す等、理解し得られる程度に静かに話しておく。當日は式にも列ること故、話は前日にしておく。

靖國神社の話

例祭當日は休園であるから、神社の場所、誰を祭つてあるか、何故祭るか等を、前日にかなり委しく話しておく。

時事話、観察話をする折が少くない。面白い話は話し手がさう苦心しないでもよく聞くが、時事話、観察話はなかなか話しにくいものである。然し、斯ういふ話も、静かにきくやうにしてゆきたい。常々きいてゐる話の上手な先生

観察

第一週

こかげ

驚異に満ちた子供の眼を瞠らせるものゝ多いこの時候に、庭の隅にたまへぶつかつたのがこのこかげなのである。こゝに保育の機會捕捉、観察の機會捕捉の意味がある。出てくるものが蛇であつたら蛇を、蛙だつたら蛙を観察させる事は言を俟たない。

に照されるこ緑色こ銀色の縞に光つて見える。かなへびの方はこかげより尾部細長く色は背が褐色、側面黒條下に白條があり腹面淡黄褐色で雄は尾の基部太く先尖り、雌は基部細く先が鈍く後肢が短いのである。

草叢の日だまりにはひ出てぢつとしてゐるのを、こちらもぢつと眺めてゐることも達、蛇の様だ、わにの様だ、やもりの様だ、と言ふかも知れない。こかげの四本の足に注意させる。そして蛇こちがひを、又縞の色に注意させる。親類として圖によつたり、標本によつたりして、わに、やもり、へび、大こかげ等をみせやう。けれど生けぢつてかふ事には不適當である。

の話なら、よく聞いてゐるこいふことは、さういふ方法こいつて、具體的に説明はしにくいが、それは幼児こ暮してゐる間に自ら會得することであつて、又些細な時にでも、これを會得しよう、それこそなく心がけてゐなければならない。

たねまき

年少組の時にはまくばかりに用意して置いた蒔く場所も、年長組にもなれば一しょに耕しもし、ふるひもかけられる。但し鍬やシャベルの刃を注意しないと思はぬ怪我をする事がある。こうして土の用意をしてゐる時、みゝずも出てくるであらう、根きり蟲も出てくるであらう、その度にそれ等も一しょに觀察させる事が出来る。

蒔く種の類も四、五種、年少組の場合と同様の注意を以てえらび、蒔けばよいのである。

第二週

櫻の花

花ご言へば櫻の花、國の花であり、材料として最も得易く、親しみ深く、花ごとしてティピカルな形態を具へてゐる。ここに於てこの花にまさるものは少い。

幼稚園の櫻が一ひら一ひら散り初めるご殊に女兒は花つなぎを喜んでゐる。それのごぎれた一時こそ觀察のチャンスで、この花を一しょにみやう。花びらの數、花びらの内側の雄蕊雌蕊は細く小さい、これ等を注意したら子房を出

して見る。そのふくらんだ所がさくらんぼになる所ご話す。開いてしまつた花だけでなく蕾にも注意を向け萼の形、従つてその役目を注意する。又櫻の木では葉柄の附根に蜜腺のある事が面白いし、これはなめても毒ではないから注意し度いこことである。花ではないが櫻の木肌は他の木肌と段違ひにきれいな事も比較して見るごわかり易いこことである。

第三週

椿

春さく木の花ごして、櫻、ぼけ等ごは亦違つた味のある花である。山茶科の喬木で常綠樹である。ここにもよくある木である。

花ごとしての特徴はまづ赤でも淡紅でもしづらりでも可愛いらしい感であり、それをよく分解してみれば、あの分厚な巾廣な花瓣ご、合生雄蕊花絲が合著してゐる雄蕊の形であらうか。又も一つの特徴はそつくり「座つた」様な花の落ち方であらう。これも庭でなら一層よいが保育室に生けてあるもので、も特徴に注意して觀察させる。猶櫻の花

等他の花(特別な形でないもの)があればそれと比較觀察させる。その場合は特に葉の光澤ある分厚な所をも比較させ度い。こうした後、鉄仕事として自由書きして生かす事が出来る。

第四週

おたまじやくし

言ふまでもなく蛙の幼生で、鰓によつて呼吸し、尾のなくなる迄を言ふのである。

おたまじやくしを得る時期は凡そ年二回ある。従つて蛙の卵を得る時期が二回あるわけで、一回は三月初旬頃から日當りのよい低濕の地で紐状の寒天質につゝまれた卵はひきがへるの卵である。もう一回のは苗代の稻の芽出す頃水田で得られる球狀の寒天質に包まれた卵で、これはこのまま蛙の卵である。おたまじやくしから飼ふのでもよいが、卵から飼へば一層興味があるものであらう。卵を得る爲にもさしたる困難もないわけで、春の一日郊外を歩けば大抵得られる。

飼ひ方として注意する事は、淺い水盤に飼ふこと。深い

水瓶に多量の水を入れてかつてはならぬ。その一方に小石、水草等で丘を作ること。これは成る可く自然のまゝらしくするわけで兩棲類に屬す蛙としての丘は是非必要である。又若し澤山飼はないで、育ち上るもののがなくなつては、この懸念からせまい容器に澤山の個體を飼ひ、その爲に酸素の不足、食糧問題の爲に失敗する事が多いのは注意しなければならぬ事である。又食物は是非與へねばならぬので、小魚の細くしたもの等を大きさに應じ、多量に過ぎぬ様に與へる。おたまじやくしの間は鰓呼吸なのであるから水はよく取かへてやる事も亦大切である。こうして飼へば、四週間から五週間位で蛙になるのである。もつゞ自然的に、そして時候が暖ければ三週半位でも蛙になる。

その觀察としての取扱方は言ふ迄もない。小鳥を飼ふ様に毎日、必ず子供と一緒におたまじやくしの水盤を訪ねる。そして卵から尾が出た、どんな形に、大きさに、の變化を、その度に子供と一緒に繪に書き、日附を入れて保育室の壁にでもはつて置く様にする。分化し過ぎた方法ではあるかも知れないがおたまじやくしの場合には、こうもし度い程變化

が面白いものである。

鯉のぼり、武者人形

年少組の時は何と言つても年長組の今よりも夢中だつたので幼稚園の武者人形をよくみてゐなかつたかも知れな

い。何のお人形が何をもつてゐるのがあるだらう。どんな形をしてゐるだらう。男児も女兒も盛な話合ひの中に人形をみ、人形を語るのである。

手 技

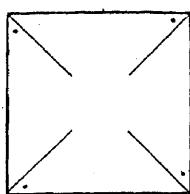
第一週

自由畫 材料隨意、畫く枚數略二枚、二回

製作 こま 風車 四回

これはこま、風車を年少の新入幼兒に作つてあげる。

こまの作り方は年少組第三週参照



ゴにさす。風車の上下の二箇所ごヒゴの下の端にマメゴムをつける

横造紙數種の色にするのもよいし、畫用紙にて四ツの三角の部分を染め分けにぬらせてつくるのもよい

第二週

自由畫 さくら 一回

庭の櫻或は折枝なきの櫻を觀察させて自由畫帖にかゝせたり、黒板なきに畫かせる。

風車は十二センチ四方位に模造紙を切り、對角線を二つ鉛筆にて引きその線を外より中心までの三分の一のところまで切る。中心ご三

角の一方に穴を開けてその穴をヒ

鉄仕事 自在 一回
粘 土 自在 一回

ヌリエ チューリップ

鉢植のチューリップ或は切花のものを用意しておいて
その實物の色を見てぬらせる

第三週

自由畫 自在 二回、一回は毛筆にて畫かせる墨を使用
するときは極少數の幼兒に静かにかゝせる

鉄仕事 自在

製作 町(商店) 金太郎 四回

透導保育案による町の製作の始り

ボール箱の空箱を各幼兒に家庭より持參させて各一軒

づゝ家をつくる。つくる店は幼兒の希望する店とする
この週二度位にて看板だけつくるもの、窓だけあける
ものなさある。

金太郎
畫用紙八ツ切大に金太郎、熊、猿、兎などを贋寫して

鯉のぼり 年少組第三週參照

金太郎が動物の角力の行司をしてゐる立繪をつくる。
一回はそれぞれの色にぬり一回は各を切りぬく。

第四週

自由畫 汽車、電車、自働車、舟等 一回 自由畫の題
材を乗りものとしてかゝせる園の門前を通行する諸乗
物を觀察に連れていつてから畫かせててもよい

ヌリエ コビノボリ 一回

園庭に高くのぼる鯉のぼりを觀察してかゝせる、鯉の
ぼりに配するに幼稚園の庭、幼兒なさのがき添はるの
も面白い

製作 住宅つき 二回 鯉のぼり 二回 店の商品を
のせる棚、臺なさをつくる箱の蓋或は別に畫用紙なさ
を用ひる。

日本幼稚園協会編輯 幼児の教育

會長 東京女子高等師範學校校長 下村壽一
主幹 附屬幼稚園主任 倉橋惣一
日本幼稚園協会規則

第一條 本會ハ幼兒教育ノ改良發達ヲ圖

ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ日本幼稚園協會ト稱ス

第三條 會員タラントスルモノハ幼稚園

ニ關係アルモノ又ハ幼兒教育ニ篤志ナルモノトス

第四條 會員ハ會費トシテ一ヶ月金參拾

五錢ヲ醸出スヘシ、會員ハ無料ニテ本

會發行雜誌ノ配布ヲ受ケ又本會ノ事業

ニ關シ諸種ノ便宜ヲ受ク

第五條 令聞名望アル人ニシテ本會ノ事

業ニ裨益アリト認ムルトキハ特ニ請ヒ

第六條 會員トナスコトアルヘシ

幼稚園ニ關係アルモノニシテ本

第七條 會ノ事業ノ爲ニ特ニ盡力ヲ與ヘラ、

モノニ請ヒテ地方委員トナスコトアル

第八條 本會ハ毎年一回總會ヲ開ク。

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

第九條 本會ハ左ノ事業ヲ行フ

一、幼兒教育ニ關スル研究及ヒ調査

第十條 本會ハ每年一回總會ヲ開ク。

但場合ニヨリ臨時休會スルコトヲ得

ノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年

ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ

設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分

ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變

更スルコトヲ得ス

會ノ開催

一、雑誌發行(毎月一回)

一、保母就職及招聘ニ關スル仲介

一、其他本會ノ目的ニ裨益アリト認メ

タル事件

第九條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 會務ヲ總理ス

主幹 一名 會長ヲ補佐シテ會務

幹事 若干名 會員ノ指揮ヲ受ケ會

評議員 若干名 重要ナル事件ニ關シ

會長ノ諮詢ニ應ス

第十條 會長ハ客員中ヨリ推薦スルモノトス

ノトス

第十一條 主幹 幹事 評議員ハ二ヶ年

ヲ期シテ會長ヨリ推舉スルモノトス

第十二條 本會ハ必要ニ應シ特ニ委員ヲ

設ケ又ハ書記ヲ雇入ル、コトアルヘシ

第十三條 本規則ハ總會出席會員ノ三分

ノ二以上ノ同意ヲ得ルニアラサレハ變

更スルコトヲ得ス

不許複製 轉載 禁止

東京市小石川區大塚町百七十二番地
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
印刷所 印刷者 柴山則常
東京市本郷區駒込林町百七十二番地
舍杏林会社

發行所 日本幼稚園協會

振替口座東京一七二六番

一、本誌御注文の方は凡て前金(郵便料)で願ひます。(郵便代用の場合には總て一割増)

一、御送金の場合はなるべく振替料金で振替日座

東京一七二六番日本幼稚園協會宛に願ひます。

一、送金の節には第何月號より第何月號迄

と明記せられたし。

一、本誌の代金に對しては別に領收證を差出しません。特に御入用の方は往復はがきで御申越を願ひます。

一、會費切又は前金切の際にはその最終發送の雜

誌の帶封に「前金切」の印章を押捺いたしますか

其節は早速御送金を願ひます。

一、本誌の見本御入用の場合には前金參拾五錢發

價定

一ヶ月分	金	參拾五錢	半牛ケ年分	金	參拾五錢	一等面	金	拾圓	特等面
一冊	冊送料	共	冊送料	金	貳圓	一頁	金	拾圓	一頁
一ヶ年	金	四圓	金	貳圓	拾錢	一等面	金	拾圓	一頁
冊	冊送料	共	冊送料	金	貳圓	一頁	金	拾圓	一頁
六	牛	ヶ年	分	金	貳圓	拾錢	一等面	金	拾圓

昭和十一年三月十五日發行

(外國行郵稅は一部金拾貳錢の割にて御拂込下さい)

告白

神田區駿河臺ノ三品田
廣告社に御申込下さい

著名園稚幼の書圖洋東

好評八版

東京女高師教授
附屬幼稚園主事

倉橋惣三先生著

四六判美本
定價二圓五十
錢
口繪多數入
送料十
六
錢

國立幼稚園保育法眞諦

著者は我國保育界の著宿、本書は現代に於ける最も完備し且つ系統ある新保育法の論述。眞諦を懸述。秀ひる新保育法優良拙説の保育参考書。

【版三】 東京女高師教授
倉橋惣三先生著
新庄よしこ先生著
共著

【版七十】 東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

【版六】 東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

【版三】 東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

【版八】 東京女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

【版六】 奈良女高師教授
附屬幼稚園主事
森川正雄先生著

幼稚園育兒法

菊判三八頁
價三〇〇〇
送〇一八

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一二
險法種痘法等掲載し懇切を盡す

保母教育學

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一六

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一六
保育法は保母資格試験の必須科

幼稚園保育の諸問題

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一八

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一六
保育法は保母資格試験の必須科

幼稚園の理論及實際

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一八

菊判三八頁
價二〇〇〇
送〇一六
幼稚園の理論及實際

日本幼稚園史

菊判三八頁
價三〇〇〇
送〇一八

菊判三八頁
價三〇〇〇
送〇一八
幼稚園史として比類なし。歴代皇室陛下行啓の榮を得し我が國幼稚園本山の大記念塔である。

東大
京阪

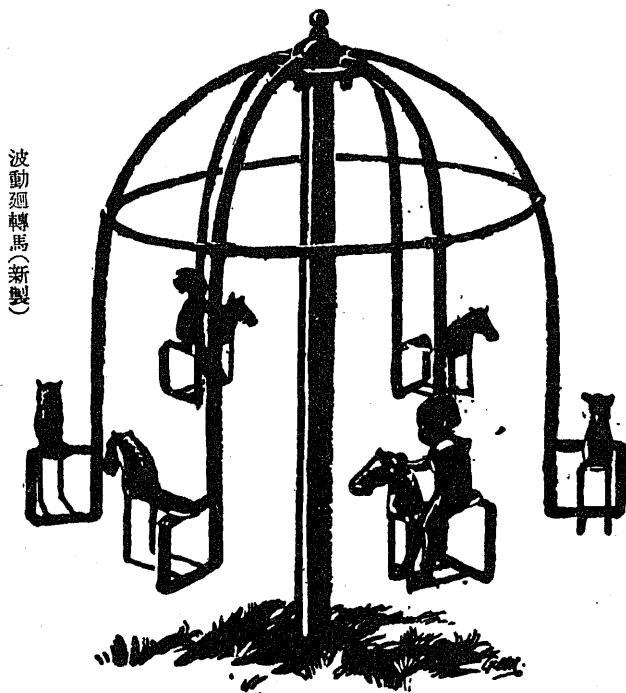
兌發 社會資合式株書圖洋東

東京市南區神安町丁目一
京阪大【替振】番六五五九三阪大【替振】

卒業園児の記念としての寄附は

御園の爲に永久的生命ある弊社製品が
最も有意義であり、常に選まれて居り
ます。さて、その好評の品々は……

◇波動迴轉塔	八〇圓
◇波動迴轉馬(新製)・下駄御手鏡一	六五圓
◇子供の家(社會遊び)	八七圓
◇スマート・セット	三二圓
◇人形芝居一揃(背景共)	五〇圓
◇大型二十人乗シーソー	七〇圓
◇桟のぼり	一一五圓
◇コンビネーション運動具	八五圓
◇樂隊遊び用樂器一揃	一八圓
◇太鼓椅子	四五圓
◇太鼓桶子	七五圓
◇鐵製二人乗ぶらん	一〇圓
◇大型鐵製滑臺	一八〇圓
◇箱 積 木	一八〇圓



株式会社ルベール館

本店・京東・田神・路小川今・段九話電番七二八三(33)

所張出・阪大・區東・五町後備・五町本話電番八三九一町本

(毎月一回十五日第三種郵便物認可)

昭和十一年三月十五日發行

定價三十五錢